

宮城県公立高等学校入学者選抜の実施に係る  
検証結果について（報告）

令和5年7月26日

高等学校入学者選抜審議会専門委員会

## I 検証の主旨及び審議の経過

### 1 検証の主旨

令和2年度宮城県公立高等学校入学者選抜が新制度のもとではじめて実施され、令和3年度及び令和4年度と3回の選抜を行ってきた。本専門委員会では、その実施状況を踏まえ、主に旧制度からの変更点についてその効果を検証し、併せて、新制度の一層の定着に向けての改善の方向性についての検討を行った。

### 2 検証の材料

(1) 令和2年度から令和4年度までの入学者選抜の実施状況

(2) 令和4年度の5月から6月にかけて実施した質問紙調査

[質問紙調査の概要]

#### イ 実施調査名

「宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査」

#### ロ 調査対象

- ・ 県内の国立・公立・私立の中学校、中等教育学校、特別支援学校【悉皆】
- ・ 県内の公立高等学校（ただし、美田園高等学校を除く）【悉皆】
- ・ 高等学校入学者選抜審議会の専門委員会で抽出した公立高等学校20校に在籍する令和4年度1～3年生及びその保護者【任意】

### 3 審議の経過

(1) 令和3年度 第1回専門委員会（令和3年9月28日、県庁）

- ◇ 座長に田端健人委員（宮城教育大学教職大学院教授）を選出
- ◇（調査研究）「現在の入試制度に係る実施状況の検証」
  - ・ 新入試制度導入まで及び導入後の経過の確認
  - ・ 検証スケジュールの検討

(2) 令和3年度 第2回専門委員会（令和3年11月1日、県庁）

- ◇（調査研究）「現在の入試制度に係る実施状況の検証」
  - ・ アンケート調査の実施について
  - ・ アンケート調査の内容について

(3) 令和3年度 第3回専門委員会 (令和4年2月16日、県庁)

- ◇ (調査研究) 「現在の入試制度に係る実施状況の検証」
  - ・ アンケート調査の内容と具体的な実施方法について

(4) 令和4年度 第1回専門委員会 (令和4年9月27日、県庁)

- ◇ 座長に熊谷龍一委員 (東北大学大学院教育学研究科准教授) を選出
- ◇ 会議は原則非公開とし、資料及び議事内容の公開可能部分を後日公開することを決定
- ◇ (調査研究) 「新入試制度の実施状況の評価」
  - ・ 3カ年の宮城県公立高等学校入学者選抜結果の検討
  - ・ 宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果分析

(5) 令和4年度 第2回専門委員会 (令和4年10月20日、県庁)

- ◇ (調査研究) 「新入試制度の実施状況の評価」
  - ・ 宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果詳細分析
- ◇ (調査研究) 「今後の定着に向けての改善の方向性」
  - ・ 今後一層の定着に向けての課題の焦点化

(6) 令和4年度 第2回入学者選抜審議会 (令和4年11月24日、県庁)

- ◇ 専門委員会から調査研究中間報告

(7) 令和5年度 第1回専門委員会 (令和5年7月7日、県庁)

- ◇ (調査研究) 「新入試制度の実施状況の評価及び今後の定着に向けての改善の方向性」
- ◇ (検討) 「高等学校入学者選抜審議会報告」

## Ⅱ 検証の観点及び検証事項

### ●検証の観点

- ・旧制度からの変更点の効果
- ・制度の今後一層の定着に向けた改善の方向性

### ●旧入試制度の課題

- ・複数の受験機会の確保に伴う入試期間の長期化
- ・出願条件設定による受験機会の不平等感や不合格者増を招いた前期選抜の在り方
- ・煩雑な入試事務作業による多忙化

### ●検証事項

- 検証 1 前期選抜と後期選抜の入試日程の一本化により、入試期間の長期化が招いた課題は解消されたか
- 検証 2 各高等学校の特色をより明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価する選抜を実施できたか
- 検証 3 各高等学校が求める生徒像を提示することで、中学生の目的意識の明確化や主体的な進路選択を促進させることができたか
- 検証 4 入試期間における、入試事務及び入試以外の業務の煩雑さや負担は軽減できたか

○検証1 前期選抜と後期選抜の入試日程の一本化により、入試期間の長期化が招いた課題は解消されたか

(1) 旧制度の課題

- ・入試期間が長期にわたることにより、教育活動を充実させることに困難が生じた。
- ・募集定員の少ない前期選抜は出願倍率が高くなり、不合格者数が増加した。また、不合格による挫折体験からの精神的回復期間の確保が必要であった。
- ・前期選抜は、出願条件があったため、前期選抜の志望校選びでは、「入りたい高校」ではなく「受験できる高校」を選択する傾向が強くなった。
- ・前期選抜合格発表後、合格者と後期選抜受験者との間で、授業に対する意欲等に差が生じた。

(2) 検証の視点

前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化することにより、入試期間の長期化により生じた負担や、前期選抜に関する課題の改善は図られたか。

(3) 検証結果（質問紙調査より）

- ・中学校、高校対象調査において、項目「入試期間の短縮が教育活動の充実に役立っている」の肯定的回答の割合が、旧入試制度下での調査と比較して大きく増加している。
- ・中学校対象調査の、項目「合格した生徒と受験を控えた生徒の混在によるクラス運営上の負担が軽減」では、肯定的回答が約7割であるが、中部地区と中部以外の地区を比較すると、肯定的回答の割合に大きな差が見られ、中部地区は肯定的回答が5割と、中部以外の地区より3割以上低い。

(4) 検証のまとめ

- ア 入試日程の一本化による入試期間の短縮が、中学校、高校における教育活動の充実につながった。
- イ 入試日程の一本化により不合格者数が減少し、前期選抜の課題であった多くの受験生に不合格体験（挫折体験）を生じさせることがなくなった。
- ウ 出願条件を撤廃したことにより、すべての受験生が入りたい高校を選択することが可能となった。
- エ 合格した生徒とこれから受験する生徒の混在によるクラス運営上の負担については改善が見られたが、調査結果には地域差が生じている。ただし、地域差が表れた要因は、国立高等専門学校・私立高校受験者の多寡等にあると推察され、入試制度のあり方に起因するものとは考えにくい。

○検証2 各高等学校の特色をより明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価する選抜を実施できたか

(1) 旧制度の課題

- ・前期選抜は、高校が出願条件を設けて受験生の多様な能力等を評価する選抜方法であったが、募集定員が少なく多くの不合格者が出たため、受験生の資質・能力を多面的に評価する機会として有効に働いたとは言い切れない。
- ・前期受験者は、国語、数学、英語の3教科に力を入れ、社会及び理科を軽視する傾向が見られるようになった。

(2) 検証の視点

新制度では、1回の学力検査の受験により、学力に基づく共通選抜と特色に基づく特色選抜の2つの方法で選抜することとした。その効果はどうであったか。

(3) 検証結果（質問紙調査より）

- ・高校対象調査の、項目「学校の特色に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている」、「求める生徒像に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている」で、肯定的回答が7割を上回った。
- ・「特色選抜の選抜方法も考慮して進路選択をしているか」を問う項目では、中学校、生徒、保護者対象調査において肯定的回答の割合が7割を下回っており、2つの選抜方法の理解や周知の仕方に課題があることがうかがえる。

(4) 検証のまとめ

- ア 第一次募集に共通選抜と特色選抜を設定したことにより、受験生の多様な能力・適性等を多面的に評価することが可能となった。
- イ 第一次募集では全受験生に5教科の学力検査を課すことにより、一部の教科を軽視する傾向が無くなった。
- ウ 各高校は、自校の特色に基づいて選抜する特色選抜を実施したが、選抜方法や、共通選抜と特色選抜の割合などについては、中学生や保護者に十分理解されているとは言えない状況があることから、周知の仕方等、引き続き検討が必要である。

○検証3 各高等学校が求める生徒像を提示することで、中学生の目的意識の明確化や主体的な進路選択を促進させることができたか

(1) 旧制度の課題

- ・前期選抜の出願条件は、具体的な指標が示され明確であったが、平等な受験機会の確保に支障があった。
- ・前期選抜に出願する生徒と出願しない生徒で目的意識や進路選択への意欲に大きな格差が生じた。

(2) 検証の視点

新制度では、各高等学校の特色を「求める生徒像」として明確に示し、目的意識や学習習慣の向上等、中学校と高校の接続としての高校入試の位置づけを明確にした。その効果はどうであったか。

(3) 検証結果（質問紙調査より）

- ・生徒、保護者対象調査において、「自分の将来を考える機会となった」、「日頃の学習意欲を高めることに役立った」、「進路意識を高めることにつながっている」等の項目で、肯定的回答の割合が7割を上回った。中学校対象調査においては、肯定的回答の割合が8割から9割を占めた。
- ・中学校対象調査における、項目「日頃の学習意欲を高めることに役立った」の肯定的回答の割合が9割を超え、旧入試制度下での調査と比較して30ポイント以上増加した。
- ・自由記述による回答では、「求める生徒像」について、「もう少し中学生にわかりやすい表現にしてほしい」、「どこが重要なのか分からない」といった意見があった。

(4) 検証のまとめ

- ア 出願条件を撤廃したことで、すべての受験生が「入りたい高等学校」に出願することが可能となり、平等な受験機会が確保できた。
- イ 「求める生徒像」を明確に示したことにより、受験生の目的意識が向上し、主体的な進路選択をする傾向が向上した。
- ウ 「求める生徒像」を明確に示したことにより、求める生徒像が示す内容を意識して中学校生活を過ごす生徒が増加した。
- エ 「求める生徒像」の記載内容や表現については、中学生や保護者にとって分かりにくい点もあるため、受験生の視点に立って引き続き検討が必要である。

## ○検証4 入試期間における、入試事務及び入試以外の業務の煩雑さや負担は軽減できたか

### (1) 旧制度の課題

- ・前期選抜志願者の増加により、学校独自検査に係る指導や入試事務作業量の増加及び教員の多忙化が課題となった。
- ・入試事務と定期考査、学年末の事務整理等の期間重複による事務作業が煩雑化した。
- ・入試期間の長期化により、教育活動及び在校生への学習指導に支障が生じた。

### (2) 検証の視点

入試日程を一本化することにより、入試期間における業務負担は軽減できたか。

### (3) 検証結果（質問紙調査より）

- ・中学校、高校対象調査において、項目「在校する生徒に対応する時間の確保につながっている」の肯定的回答の割合が大半を占めた。
- ・項目「入試業務の負担軽減につながっている」では、高校における肯定的回答の割合が、中学校におけるそれと比較して20ポイント低かった。

### (4) 検証のまとめ

- ア 前期選抜と後期選抜を一本化することにより、入試事務の回数と作業量が減少した。
- イ 入試期間が短縮され、教育活動や在校生への指導に時間を割けるようになった。
- ウ 受験機会の確保の措置として導入した追試験は受験生に安心感を与えたが、第一次募集の本試験及び追試験、第二次募集をすべて3月に実施するため、追試験や第二次募集を実施する高校にとっては、非常に窮屈な日程である。日程については引き続き検討が必要である。



## ● 検証結果

- 1 令和2年度から始まった新入試制度は、旧制度の課題を概ね解消しているとして、どの調査対象においても肯定的に受け入れられていることから、入試制度改革には一定の成果が認められる。
- 2 各検証事項の(4) 検証のまとめ に示した新制度の課題については、次のように対応する。
  - (1) 「求める生徒像」、共通選抜と特色選抜の分かりにくさについて、令和7年度に「求める生徒像・選抜方法一覧」を更新し、記載内容や表現等を工夫してより分かりやすいものにする。
  - (2) 選抜日程について、引き続き入学者選抜審議会において十分に審議する。

## Ⅲ 専門委員

### 令和3年度専門委員会（所属は当時）

氏名	ふりがな	所属	備考
田端 健人	たばた たけと	宮城教育大学教職大学院教授	専門委員長 審議会委員
浅野 直美	あさの なおみ	宮城県PTA連合会副会長	審議会委員
清水 祐子	しみず ゆうこ	大崎市立松山中学校校長	審議会委員
西條 和也	さいじょう かずや	気仙沼市立大島中学校教頭	
河本 和文	かわもと かずふみ	東北学院榴ヶ岡高等学校校長	
葛西 利樹	かさい としき	宮城県志津川高等学校校長	
尾形 裕	おがた ゆたか	宮城県築館高等学校教頭	
高橋 賢	たかはし けん	宮城県総合教育センター所長	審議会委員

### 令和4年度専門委員会（所属は当時）

氏名	ふりがな	所属	備考
熊谷 龍一	くまがい りゅういち	東北大学大学院教育学研究科准教授	専門委員長 審議会委員
浅野 直美	あさの なおみ	宮城県PTA連合会副会長	審議会委員
高橋 千春	たかはし ちはる	栗原市立築館中学校校長	審議会委員
佐藤 和夫	さとう かずお	蔵王町立遠刈田中学校教頭	
河本 和文	かわもと かずふみ	東北学院榴ヶ岡高等学校校長	
茂木 悟	もてぎ さとる	宮城県名取高等学校校長	
佐々木 久晴	ささき ひさはる	宮城県宮城広瀬高等学校教頭	
菅井 理恵	すがい りえ	宮城県総合教育センター所長	審議会委員

令和5年度第1回専門委員会

氏名	ふりがな	所属	備考
熊谷 龍一	くまがい りゅういち	東北大学大学院教育学研究科准教授	専門委員長 審議会委員
浅野 直美	あさの なおみ	宮城県PTA連合会会長	審議会委員
小野 ゆかり	おの ゆかり	美里町立南郷中学校校長	審議会委員
吉田 尚美	よしだ なおみ	女川町立女川中学校教頭	
河本 和文	かわもと かずふみ	東北学院榴ヶ岡高等学校校長	
茂木 悟	もてぎ さとる	宮城県名取高等学校校長	
佐々木 久晴	ささき ひさはる	宮城県宮城広瀬高等学校教頭	
中山 治彦	なかやま はるひこ	宮城県総合教育センター所長	審議会委員

## 宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査実施要項

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

- 1 実施調査名 「宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査」
- 2 調査の目的 「令和2年度入学者選抜」からスタートした新しい入試制度について、これまで3カ年の実施状況を踏まえた評価を行うことで、旧制度からの変更点の効果を検証するとともに、その課題と改善の方向性についての意見を集約し、入学者選抜に係る今後の検討の参考とする。
- 3 調査対象 ○県内の国立・公立・私立の中学校、中等教育学校、特別支援学校【悉皆】  
○県内の公立高等学校（ただし、美田園高等学校を除く）【悉皆】  
○高等学校入学者選抜審議会の専門委員会で抽出した公立高等学校20校に在籍する令和4年度1～3年生及びその保護者【任意】
- 4 調査期間 令和4年5月下旬から令和4年6月17日（金）までの期間で各学校の実状に応じて実施する。
- 5 回答提出期限 令和4年6月17日（金）
- 6 調査内容 【別添】質問紙を参照
- 7 調査結果の集計・報告 令和4年度高等学校入学者選抜審議会で報告する。  
その後、専門委員会等において詳細を検証する。
- 8 その他 質問紙調査実施後のスケジュール  
令和4年7月27日 第1回高等学校入学者選抜審議会報告（速報版）  
令和4年8月以降 専門委員会で検証作業

【補足】調査対象校数及び回答率

公立の高等学校	82校	(回答数	82校)
※全日制69校(川崎校含む)・定時制13校		*回答率	100%
国公立の中学校	204校	(回答数	200校)
※国立1校・公立194校・私立8校・中等教育学校1校		*回答率	98.0%
国公立の特別支援学校中等部(高等学園3校除く)	18校	(回答数	15校)
※国立1校・公立17校		*回答率	83.3%
抽出した県立高等学校の在籍生徒	8,221名	(回答数	3,011名)
		*回答率	36.6%
抽出した県立高等学校の在籍生徒の保護者	8,221名	(回答数	2,095名)
		*回答率	25.5%

【補足】生徒・保護者調査依頼校 [抽出]

(※生徒数は各校の令和4年4月1日現在の在籍者数)

地区	普通科	普通科+専門	専門・総合	定時制	生徒数計
南部	角田 (396)	柴田 (406)	村田 (162)	白石七ヶ宿 (37)	1,001
中部 (仙台市内)	仙台二 (955)	泉 (789)	工業 (811)	第二工業 (29)	2,584
中部 (仙台市外)	名取北 (770)	黒川 (491)	農業 (710)	貞山 (203)	2,174
北部	築館 (456)	松山 (136)	登米総合産業 (426)	田尻さくら (186)	1,204
東部	石巻 (605)	志津川 (149)	気仙沼向洋 (298)	東松島 (206)	1,258
生徒数計	3,182	1,971	2,407	661	8,221

抽出の基準：(普通科)各地区の拠点校を中心に抽出

(普通+専門)各地区の普通科で抽出した学校とは異なる地域の高校

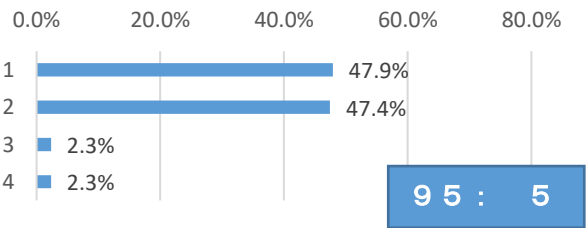
(専門・総合)学科の重複がないように抽出

※地区内でも各地域から高校を抽出する。

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：中学校】

(1) 中 (1) 【Q1】 高校入試という目標が、生徒が日頃の学習意欲を高めることに役立っている。

1：そう思う	103	47.9%
2：どちらかといえばそう思う	102	47.4%
3：どちらかといえばそう思わない	5	2.3%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



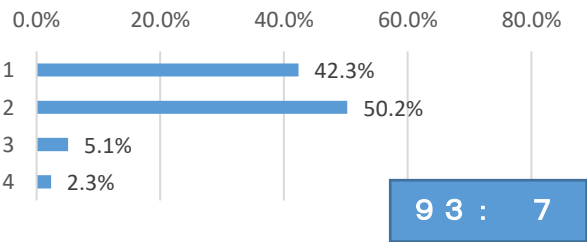
【比較】 生徒Q2, 保護者Q2

区分	主な自由記述内容【記述数49 (22.8%) 1or2の記述48, 3or4の記述1】
評価事項	・目標が明確化され、努力する行動や言動に変化があるなどの記載 (21件) ・3年生になると意識の向上が見られたなどの記載 (15件)
課題事項	・1,2年生には難しい。

(2) 中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑧の質問にお答えください。

① 【Q2】 生徒が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されている。

1：そう思う	91	42.3%
2：どちらかといえばそう思う	108	50.2%
3：どちらかといえばそう思わない	11	5.1%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	

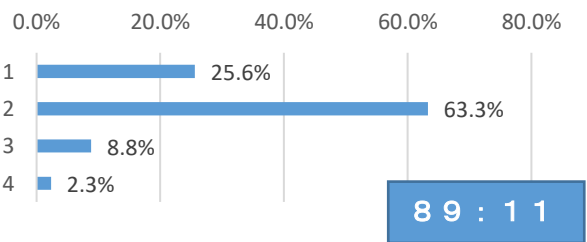


【比較】 高等学校Q1, 生徒Q4, 保護者Q4

区分	主な自由記述内容【記述数33 (15.3%) 1or2の記述27, 3or4の記述5】
評価事項	・必要な内容が示してあり、生徒が志望校を選ぶ上で重要な情報を得られるなどの記載 (15件) ・生徒がよく調べていたや進路指導に活用できたなどの記載 (6件)
課題事項	・わかりにくく、他の学校とあまり差がないように感じるなどの記載 (8件)

② 【Q3】 受験生の進路に対する意識を高めることにつながっている。

1：そう思う	55	25.6%
2：どちらかといえばそう思う	136	63.3%
3：どちらかといえばそう思わない	19	8.8%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	

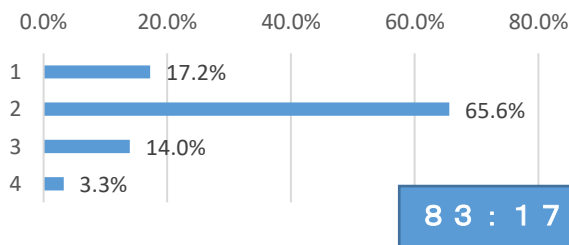


【比較】 高等学校Q2, 生徒Q7, 保護者Q7

区分	主な自由記述内容【記述数31 (14.4%) 1or2の記述21, 3or4の記述10】
評価事項	・しっかり読み込んで進路決定の指針となり意欲を高めたなどの記載 (14件)
課題事項	・内容を確認していないや家庭により温度差があるなどの記載 (3件) ・数値的なものなど具体的な内容で示さないとわかりにくいなどの記載 (3件)

③【Q4】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。

1：そう思う	37	17.2%
2：どちらかといえばそう思う	141	65.6%
3：どちらかといえばそう思わない	30	14.0%
4：そう思わない	7	3.3%
回答数合計	215	

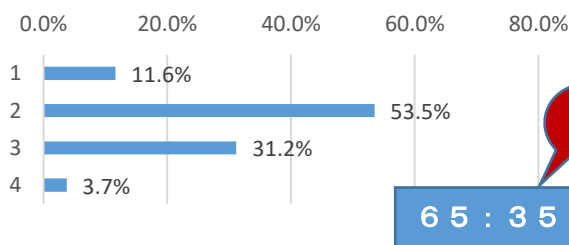


【比較】高等学校Q3，生徒Q8，保護者Q8

区分	主な自由記述内容【記述数31（14.4%） 1or2の記述19, 3or4の記述12】
評価事項	・自分の特性を生かした進路選択の参考になるなどの記載（11件）
課題事項	・冊子自体を見ていない生徒がいるなどの記載（5件） ・進路実績や教育課程などを重視して参考にしていないなどの記載（3件）

④【Q5】日頃の中学校生活において，生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている。

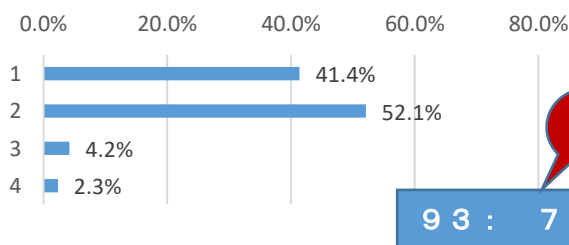
1：そう思う	25	11.6%
2：どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	8	3.7%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数30（14.0%） 1or2の記述12, 3or4の記述18】
評価事項	・日々の勉強の取組や心掛けにつながっているなどの記載（12件）
課題事項	・求める生徒像が学習習慣を身に付けることに関連していないなどの記載（11件） ・定員割れの学校が増えて日々の学習習慣への影響が薄れているなどの記載（2件）

⑤【Q6】教員が各高校の特色を理解することに役立っている。

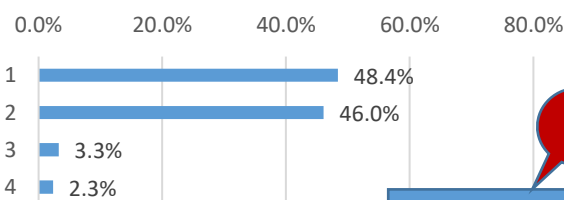
1：そう思う	89	41.4%
2：どちらかといえばそう思う	112	52.1%
3：どちらかといえばそう思わない	9	4.2%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数27（12.6%） 1or2の記述22, 3or4の記述5】
評価事項	・詳しく説明されていて理解しやすいなどの記載（12件） ・新しい情報が得られる，面談で活用しているなどの記載（2件）
課題事項	・情報量がそれほど多くないので役立っているとまでは言えないなどの記載（3件） ・ホームページや他の媒体を参考にしているなどの記載（2件）

⑥【Q7】 教員が受験生に対して進路指導を行うことに役立っている。

1 : そう思う	104	48.4%
2 : どちらかといえばそう思う	99	46.0%
3 : どちらかといえばそう思わない	7	3.3%
4 : そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



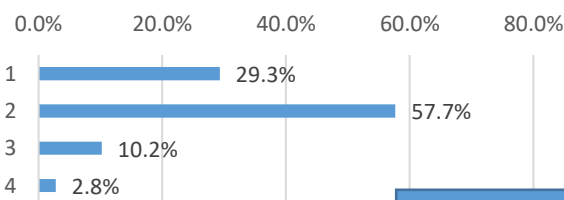
94 : 6



区分	主な自由記述内容【記述数24 (11.2%) 1or2の記述23, 3or4の記述1】
評価事項	・具体的に記載されているので伝えるべき事項について役に立っているなどの記載 (12件) ・面談で活用しているなどの記載 (7件)
課題事項	・各学校の内容が同じように書かれている (1件)

⑦【Q8】 受験生が各高校の特色を理解することに役立っている。

1 : そう思う	63	29.3%
2 : どちらかといえばそう思う	124	57.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	22	10.2%
4 : そう思わない	6	2.8%
回答数合計	215	



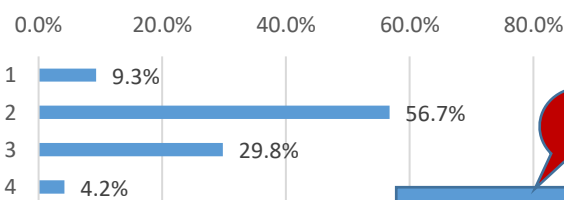
87 : 13

【比較】 高等学校Q6, 生徒Q6, 保護者Q6

区分	主な自由記述内容【記述数21 (9.8%) 1or2の記述18, 3or4の記述3】
評価事項	・進路選択のイメージができ, 効果があったなどの記載 (12件)
課題事項	・表現が難しかったり, 各学校の内容が同じように書かれているなどの記載 (4件) ・資料よりも学校説明会等に直接参加する方が理解しやすいなどの記載 (3件)

⑧【Q9】 生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている。

1 : そう思う	20	9.3%
2 : どちらかといえばそう思う	122	56.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	64	29.8%
4 : そう思わない	9	4.2%
回答数合計	215	



66 : 34

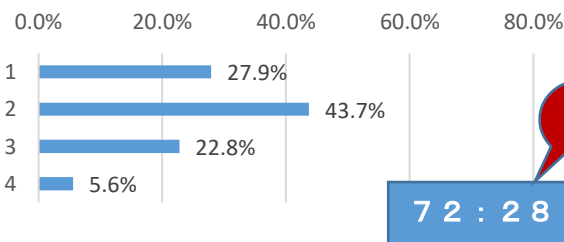


区分	主な自由記述内容【記述数25 (11.6%) 1or2の記述14, 3or4の記述11】
評価事項	・具体的な目標を持って日々を過ごしているなどの記載 (7件) ・生徒自身がすり替える視点として捉えられるなどの記載 (2件)
課題事項	・直接関連しているとは思えないなどの記載 (8件) ・中学校生活の充実にはもう少し早く複数の資料を提示する必要があるなどの記載 (2件)

(3) 中 (3) 新しい入試制度（現行入試制度）において、入試日程を一本化したことについて、次の①～⑦の質問にお答えください。

①【Q10】入試期間が短くなり、受験生として緊張が継続する負担が軽減している。

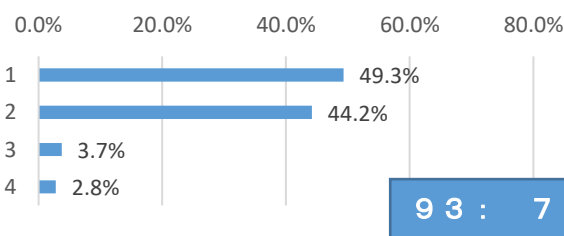
1：そう思う	60	27.9%
2：どちらかといえばそう思う	94	43.7%
3：どちらかといえばそう思わない	49	22.8%
4：そう思わない	12	5.6%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数28（13.0%） 1or2の記述9, 3or4の記述19】
評価事項	・軽減しているなどの記載（4件）
課題事項	・私立高校入試を考えるとそれほど変化していないなどの記載（11件） ・受験日が1日となったことに対する緊張感が強まったなどの記載（6件）

②【Q11】第一次募集に追試験が導入され、受験に臨む上で、受験生や保護者の安心感につながっている。

1：そう思う	106	49.3%
2：どちらかといえばそう思う	95	44.2%
3：どちらかといえばそう思わない	8	3.7%
4：そう思わない	6	2.8%
回答数合計	215	

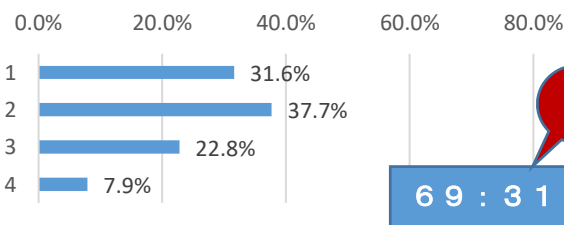


【比較】生徒Q9, 保護者Q9

区分	主な自由記述内容【記述数31（14.4%） 1or2の記述29, 3or4の記述2】
評価事項	・安心して受験に臨めたなどの記載（27件）
課題事項	・追試験の内容についての不安を訴える生徒等がいる（1件） ・感染症等への不安感は払拭しきれない（1件）

③【Q12】合格した生徒と受験を控えた生徒が混在することによるクラス運営上の負担が軽減している。

1：そう思う	68	31.6%
2：どちらかといえばそう思う	81	37.7%
3：どちらかといえばそう思わない	49	22.8%
4：そう思わない	17	7.9%
回答数合計	215	

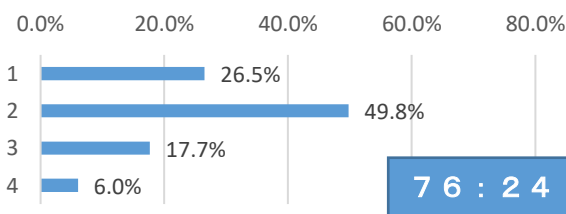


区分	主な自由記述内容【記述数41（19.1%） 1or2の記述17, 3or4の記述24】
評価事項	・旧入試制度のときには前期選抜不合格者への対応も含め負担が大きかったなどの記載（8件） ・生徒との相談時間が多く確保できるようになったなどの記載（2件）
課題事項	・私立高校入試があるのであまり変化はないなどの記載（25件）



④【Q13】 教員が個々の生徒に対応するための時間を確保することにつながっている。

1 : そう思う	57	26.5%
2 : どちらかといえばそう思う	107	49.8%
3 : どちらかといえばそう思わない	38	17.7%
4 : そう思わない	13	6.0%
回答数合計	215	

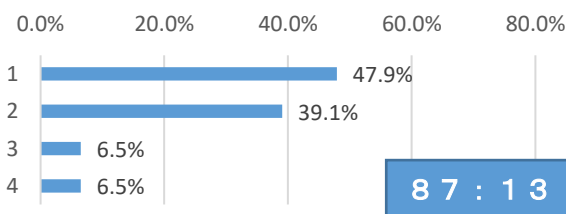


【比較】 高等学校 Q 7

区分	主な自由記述内容【記述数27 (12.6%) 1or2の記述18, 3or4の記述9】
評価事項	・面談等を定期的に繰り返し実施することができたなどの記載 (10件) ・入試事務の回数が減ったことは良かったなどの記載 (6件)
課題事項	・関連性は感じないなどの記載 (6件) ・私立高校のようにWeb出願に移行するとよい (1件)

⑤【Q14】 受験指導に費やす時間や出願手続き等の入試事務量の負担軽減につながっている。

1 : そう思う	103	47.9%
2 : どちらかといえばそう思う	84	39.1%
3 : どちらかといえばそう思わない	14	6.5%
4 : そう思わない	14	6.5%
回答数合計	215	

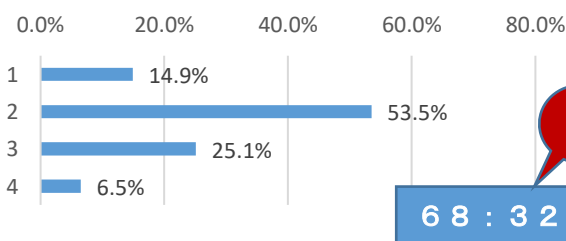


【比較】 高等学校 Q 9

区分	主な自由記述内容【記述数29 (13.5%) 1or2の記述20, 3or4の記述9】
評価事項	・出願手続きが1回減ることで負担がかなり減少したなどの記載 (19件)
課題事項	・入試事務量の軽減をそれほど実感できないなどの記載 (6件) ・私立高校のようにWeb出願に移行するとよいなどの記載 (2件)

⑥【Q15】 入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている。

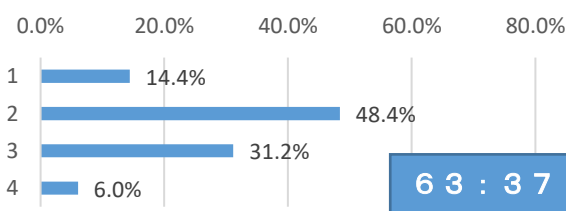
1 : そう思う	32	14.9%
2 : どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	54	25.1%
4 : そう思わない	14	6.5%
回答数合計	215	



区分	主な自由記述内容【記述数21 (9.8%) 1or2の記述8, 3or4の記述13】
評価事項	・授業実施時数を確保することができたなどの記載 (4件) ・本来の教育活動に費やせる時間が増えたなどの記載 (3件)
課題事項	・私立高校入試等があるので入試期間が短くなったとは感じられないなどの記載 (11件) ・教育活動が充実したとは感じていないなどの記載 (2件)

⑦【Q16】生徒が進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行っている。

1：そう思う	31	14.4%
2：どちらかといえばそう思う	104	48.4%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	13	6.0%
回答数合計	215	

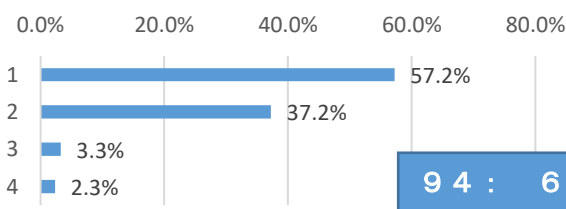


【比較】生徒Q12, 保護者Q12

区分	主な自由記述内容【記述数50 (23.3%) 1or2の記述17, 3or4の記述33】
評価事項	・自分の特性を十分に考えて進路選択することができたなどの記載 (10件)
課題事項	・共通選抜の割合が高い高校が多いためあまり考慮していないなどの記載 (16件) ・どちらの選抜で合格したかわからないので進路指導が難しいなどの記載 (16件) ・選抜方法ではなく学校自体で進路選択しているなどの記載 (2件)

(4) 中 (4) 【Q17】1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役に立っている。

1：そう思う	123	57.2%
2：どちらかといえばそう思う	80	37.2%
3：どちらかといえばそう思わない	7	3.3%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



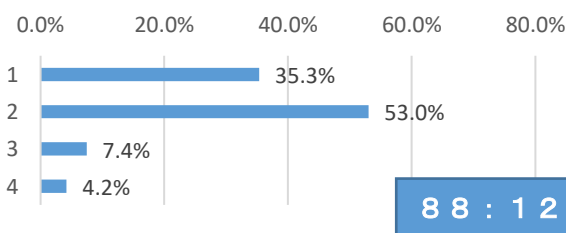
【比較】高等学校Q13, 生徒Q10, 保護者Q10

区分	主な自由記述内容【記述数25 (11.6%) 1or2の記述23, 3or4の記述2】
評価事項	・進路選択に大きく参考になっているなどの記載 (20件)
課題事項	・出願期間都の兼ね合いで12月下旬の公表であればもう少し考慮の余地がある (1件) ・倍率を見て出願先を変更したり安心したりする生徒がいるなどの記載 (2件)

(5) 中 (5) 新しい入試制度（現行入試制度）の日程について、次の①～③の質問にお答えください。

①【Q18】第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、中学校が受験生に対応する上で適切である。

1：そう思う	76	35.3%
2：どちらかといえばそう思う	114	53.0%
3：どちらかといえばそう思わない	16	7.4%
4：そう思わない	9	4.2%
回答数合計	215	

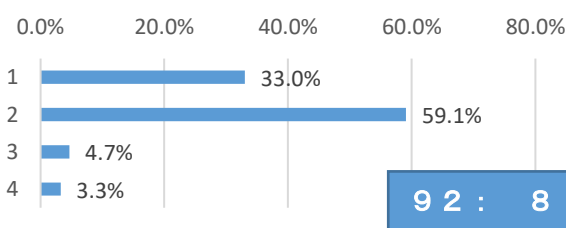


【比較】高等学校Q14, 生徒Q11, 保護者Q11

区分	主な自由記述内容【記述数19 (8.8%) 1or2の記述9, 3or4の記述10】
評価事項	・適切であるなどの記載 (7件)
課題事項	・緊張感を持った生活を送ることを考えると長いように感じるなどの記載 (2件) ・私立高校の合格発表から第一次募集の出願までの期間が少し短いなどの記載 (2件) ・第一次募集合格発表から第二次募集の出願までもう少し日数が欲しいなどの記載 (2件)

②【Q19】 第一次募集の本試験から追試験までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。

1：そう思う	71	33.0%
2：どちらかといえばそう思う	127	59.1%
3：どちらかといえばそう思わない	10	4.7%
4：そう思わない	7	3.3%
回答数合計	215	

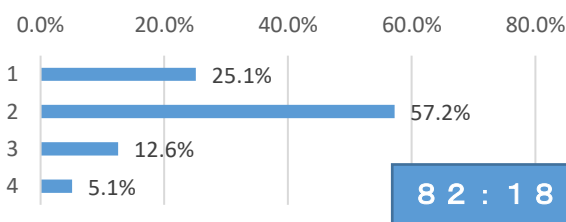


【比較】高等学校Q15

区分	主な自由記述内容【記述数16 (7.4%) 1or2の記述10, 3or4の記述6】
評価事項	・体調の回復の様子を確認しながら対応できる期間であるなどの記載 (9件)
課題事項	・新型コロナウイルス感染症の対応が日々変化するので何とも言えないなどの記載 (3件) ・中学校の卒業式に係る受験生への対応に苦慮する (1件)

③【Q20】 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。

1：そう思う	54	25.1%
2：どちらかといえばそう思う	123	57.2%
3：どちらかといえばそう思わない	27	12.6%
4：そう思わない	11	5.1%
回答数合計	215	



【比較】高等学校Q16

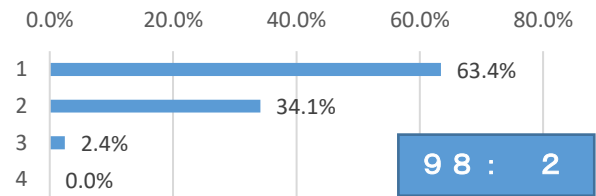
区分	主な自由記述内容【記述数27 (12.6%) 1or2の記述12, 3or4の記述15】
評価事項	・支障はないもしくは短いと感じるがやむを得ないなどの記載 (8件)
課題事項	・できればもう少し考える時間の保障が欲しいなどの記載 (15件) ・期間が長すぎるなどの記載 (2件)

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：高等学校】

(1) 高 (1) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑥の質問にお答えください。

①【Q1】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容を記載している。

1：そう思う	52	63.4%
2：どちらかといえばそう思う	28	34.1%
3：どちらかといえばそう思わない	2	2.4%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	

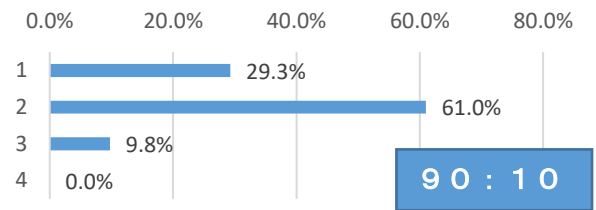


【比較】中学校Q2，生徒Q4，保護者Q4

区分	主な自由記述内容【記述数10 (12.2%) 1or2の記述10, 3or4の記述2】
評価事項	・具体的に書いてあるので受験生にとって有用であるなどの記載 (6件)
課題事項	・ある程度の情報は含まれているがすべてではないなどの記載 (2件) ・選抜方法が学力点と調査書点にしばられると必ずしも有効に働かない (1件)

②【Q2】受験生が目的意識を向上させることにつながっている。

1：そう思う	24	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	50	61.0%
3：どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	

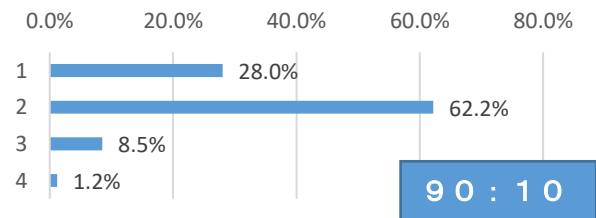


【比較】中学校Q3，生徒Q7，保護者Q7

区分	主な自由記述内容【記述数13 (15.9%) 1or2の記述9, 3or4の記述4】
評価事項	・具体的な内容が網羅されているなどの記載 (7件)
課題事項	・目的意識の向上とまでは言えないなどの記載 (2件) ・読み込んでいる入学生が少ない (1件)

③【Q3】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。

1：そう思う	23	28.0%
2：どちらかといえばそう思う	51	62.2%
3：どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	

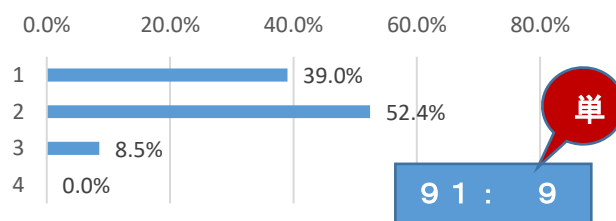


【比較】中学校Q4，生徒Q8，保護者Q8

区分	主な自由記述内容【記述数18 (22.0%) 1or2の記述13, 3or4の記述5】
評価事項	・自分で受験校を決める際の重要な情報になっているなどの記載 (3件)
課題事項	・参考資料の1つとなっているが、塾等の影響の方が大きいなどの記載 (9件) ・学力検査の点数によって入れる高校を選んでいる傾向が強い (2件)

④【Q4】各高校が進める特色ある学校づくりに役立っている。

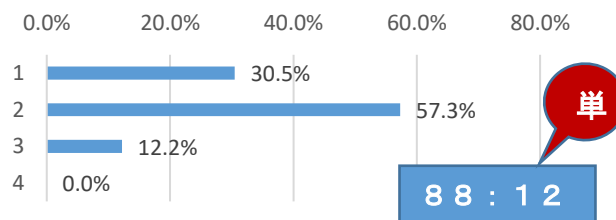
1：そう思う	32	39.0%
2：どちらかといえばそう思う	43	52.4%
3：どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	



区分	主な自由記述内容【記述数12（14.6%） 1or2の記述9, 3or4の記述3】
評価事項	・各校が育成を目指す資質・能力とリンクしているなどの記載（6件）
課題事項	・表現が似ていて他校との差を出すことが難しいなどの記載（2件）

⑤【Q5】中学校の教員が、各高校の特色を理解することに役立っている。

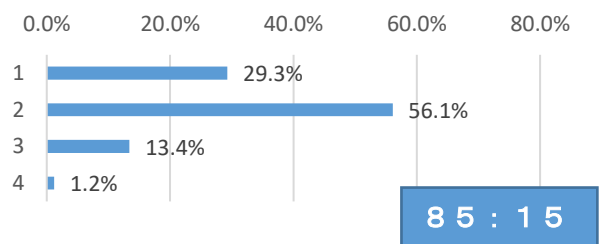
1：そう思う	25	30.5%
2：どちらかといえばそう思う	47	57.3%
3：どちらかといえばそう思わない	10	12.2%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	



区分	主な自由記述内容【記述数16（19.5%） 1or2の記述7, 3or4の記述9】
評価事項	・理解に役立っていると思われるなどの記載（6件）
課題事項	・理解する上での一助にはなっているが、十分ではないなどの記載（6件） ・専門学科に関する興味・理解を深めることは難しいなどの記載（2件）

⑥【Q6】受験生が各高校の特色を理解することに役立っている。

1：そう思う	24	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	46	56.1%
3：どちらかといえばそう思わない	11	13.4%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	



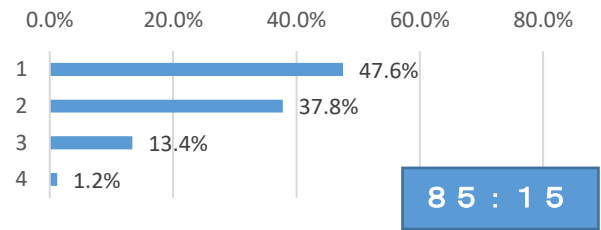
【比較】中学校Q8，生徒Q6，保護者Q6

区分	主な自由記述内容【記述数17（20.7%） 1or2の記述8, 3or4の記述9】
評価事項	・各校の興味を持つきっかけとなっているなどの記載（2件）
課題事項	・表現が似ていて受験生に他校との差をわかりやすくすることが難しいなどの記載（6件） ・塾や保護者の意向（学力検査の点数も含む）で志望校を決定しているなどの記載（3件）

(2) 高 (2) 新しい入試制度（現行入試制度）において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定した  
ことについて、次の①～⑥の質問にお答えください。

①【Q7】入試期間が短くなり、在校生徒に対応する時間の確保につながっている。

1：そう思う	39	47.6%
2：どちらかといえばそう思う	31	37.8%
3：どちらかといえばそう思わない	11	13.4%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	

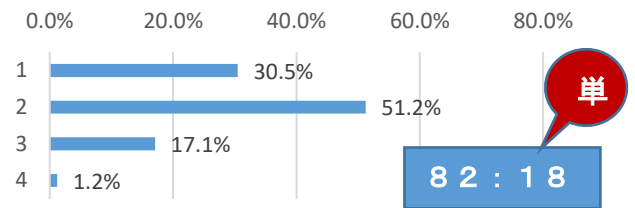


【比較】中学校Q13

区分	主な自由記述内容【記述数20 (24.4%) 1or2の記述12, 3or4の記述8】
評価事項	・入試業務の負担軽減により在校生徒に対する支援が行えるようになったなどの記載 (9件)
課題事項	・入試期間は短くなったが3月は負担が増加し生徒への時間がとれなかったなどの記載 (7件) ・3月は追試験の導入さらに新型コロナ対応等で確保できなかったなどの記載 (2件)

②【Q8】入試期間が短くなり、高校の教育活動を充実させることに役立っている。

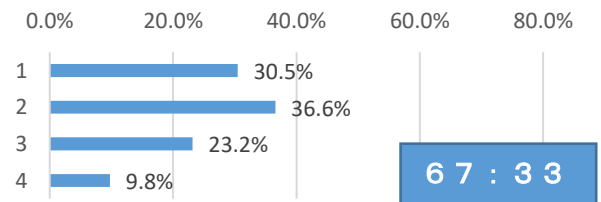
1：そう思う	25	30.5%
2：どちらかといえばそう思う	42	51.2%
3：どちらかといえばそう思わない	14	17.1%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	



区分	主な自由記述内容【記述数19 (23.2%) 1or2の記述11, 3or4の記述8】
評価事項	・以前より時間を確保できるようになったなどの記載 (7件)
課題事項	・入試期間は短くなったが教育活動の充実できるまでとは言えないなどの記載 (8件) ・3月は入試シフトになってしまい本来の教育活動に影響があるなどの記載 (3件)

③【Q9】高校における入試業務の負担が軽減している。

1：そう思う	25	30.5%
2：どちらかといえばそう思う	30	36.6%
3：どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4：そう思わない	8	9.8%
回答数合計	82	

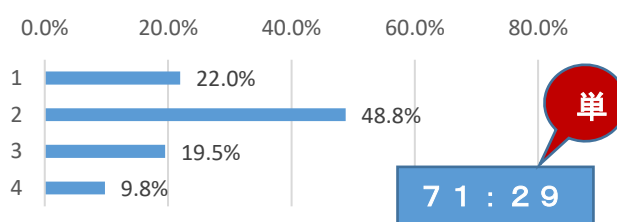


【比較】中学校Q14

区分	主な自由記述内容【記述数36 (43.9%) 1or2の記述15, 3or4の記述21】
評価事項	・(受験実施数の減少や学校独自問題廃止等)入試に係る業務は減ったなどの記載 (6件)
課題事項	・入試回数は減少したが、業務量としては増加したところも感じられるなどの記載 (13件) ・負担軽減していると思うが実感を伴うほどではないなどの記載 (5件) ・この2年間は新型コロナ対応で負担感が増しているなどの記載 (6件) ・採点業務や追試験など3月に業務が集中していて負担感を感じるなどの記載 (2件)

④【Q10】入試日程を一本化しても、複数の選抜機会が維持されている。

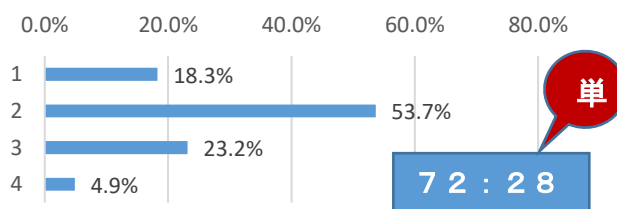
1 : そう思う	18	22.0%
2 : どちらかといえばそう思う	40	48.8%
3 : どちらかといえばそう思わない	16	19.5%
4 : そう思わない	8	9.8%
回答数合計	82	



区分	主な自由記述内容【記述数20 (24.4%) 1or2の記述6, 3or4の記述14】
評価事項	・異なる選抜方法が組み合わさっているなどの記載 (5件)
課題事項	・受験機会を減らしたことで選抜機会が複数あっても維持されたとは言い難いとの記載 (6件) ・受験回数が減少したことで私立に人材が流出しているなどの記載 (4件) ・定員割れで複数の選抜を実施できないため維持されているとは言い難いなどの記載 (2件)

⑤【Q11】学校の特色に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている。

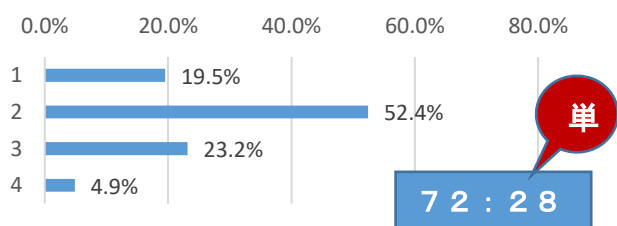
1 : そう思う	15	18.3%
2 : どちらかといえばそう思う	44	53.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4 : そう思わない	4	4.9%
回答数合計	82	



区分	主な自由記述内容【記述数22 (26.8%) 1or2の記述6, 3or4の記述16】
評価事項	・2つの異なる基準で見ているので多面性はあるなどの記載 (4件)
課題事項	・調査書と学力検査だけで多面的に評価とは言い難いなどの記載 (7件) ・定員割れで多面的に評価する機会がないなどの記載 (4件)

⑥【Q12】求める生徒像に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている。

1 : そう思う	16	19.5%
2 : どちらかといえばそう思う	43	52.4%
3 : どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4 : そう思わない	4	4.9%
回答数合計	82	

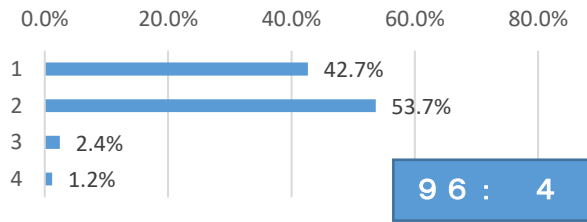


区分	主な自由記述内容【記述数26 (31.7%) 1or2の記述9, 3or4の記述17】
評価事項	・特色選抜について多面的な評価をするという点で効果ありなどの記載 (5件)
課題事項	・定員割れのため多面的に評価する機会がないなどの記載 (6件) ・学校外での活動が評価しにくいなどの記載 (4件)



(3) 高 (3) 【Q13】 1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役立っている。

1 : そう思う	35	42.7%
2 : どちらかといえばそう思う	44	53.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	2	2.4%
4 : そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	



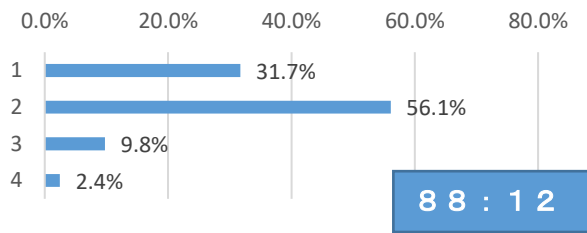
【比較】 中学校 Q17, 生徒 Q10, 保護者 Q10

区分	主な自由記述内容【記述数13 (15.9%) 1or2の記述10, 3or4の記述3】
評価事項	・進路選択に役立っているなどの記載 (6件)
課題事項	・調査結果に左右されていることから是非は何ともいえないなどの記載 (2件) ・「人気投票」的な意味合いが強いのではないかなど (1件)

(4) 高 (4) 新しい入試制度 (現行入試制度) の日程について、次の①～③の質問にお答えください。

① 【Q14】 第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、高校が入試を実施する上で適切である。

1 : そう思う	26	31.7%
2 : どちらかといえばそう思う	46	56.1%
3 : どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4 : そう思わない	2	2.4%
回答数合計	82	

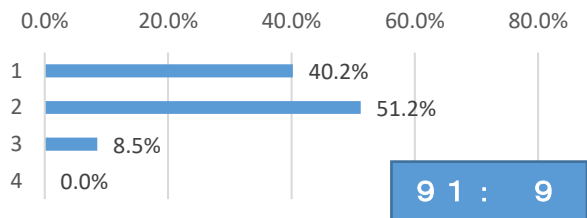


【比較】 中学校 Q18, 生徒 Q11, 保護者 Q11

区分	主な自由記述内容【記述数13 (15.9%) 1or2の記述6, 3or4の記述7】
評価事項	・適切であるなどの記載 (3件)
課題事項	・全体的に忙しい日程であるなどの記載 (6件) ・第一次募集をもう1週早めることが望ましいなどの記載 (2件)

② 【Q15】 第一次募集の本試験から追試験までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。

1 : そう思う	33	40.2%
2 : どちらかといえばそう思う	42	51.2%
3 : どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4 : そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	



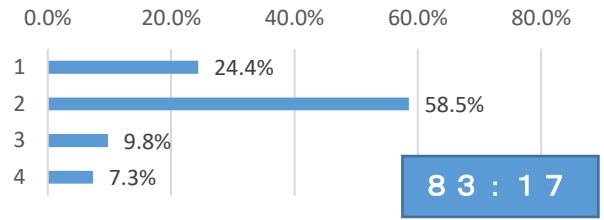
【比較】 中学校 Q19

区分	主な自由記述内容【記述数11 (13.4%) 1or2の記述5, 3or4の記述6】
評価事項	・大きな問題がなかったなどの記載 (4件)
課題事項	・コロナ対応を考えると期間としては短いのではないかなど (4件)



③【Q16】 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。

1：そう思う	20	24.4%
2：どちらかといえばそう思う	48	58.5%
3：どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4：そう思わない	6	7.3%
回答数合計	82	



【比較】 中学校 Q20

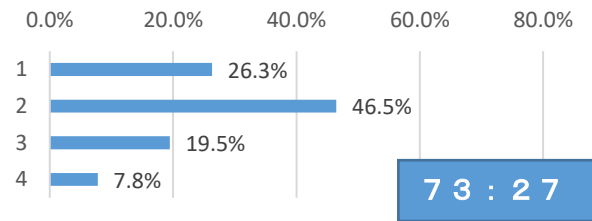
区分	主な自由記述内容【記述数18 (22.0%) 1or2の記述7, 3or4の記述11】
評価事項	・やむを得ないと思われるなどの記載 (5件)
課題事項	・仕方ないことではあるが日程が非常にタイトであるなどの記載 (8件) ・第二次募集の出願締切を午後3時から午前11時にして欲しいなどの記載 (2件)

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：生徒】

(1) 生 (1) 高校入試（学力検査）について、次の①～③の質問にお答えください。

①【Q1】自分の将来を考える機会になった。

1：そう思う	792	26.3%
2：どちらかといえばそう思う	1399	46.5%
3：どちらかといえばそう思わない	586	19.5%
4：そう思わない	234	7.8%
回答数合計	3011	

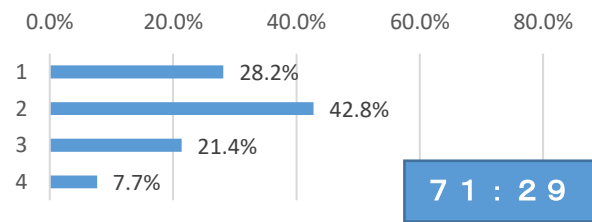


【比較】保護者Q1

区分	主な自由記述内容【記述数525（17.4%） 1or2の記述379, 3or4の記述146】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が志望する進路（高校，専門学校，大学等）を考えているから（多数）</li> <li>・学問の分野や具体的な職業について考えることができた（多数）</li> <li>・進路相談やオープンキャンパスに参加することで深く考えることができた</li> <li>・自分の現在の實力を知ることができた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来についてあまり関心がない（多数）</li> <li>・特に考えたことがない（多数）</li> <li>・それほど入学する高校にこだわりがない</li> <li>・ただ勉強するだけだった</li> <li>・周囲にあわせて何となく受験した</li> <li>・将来をすでに決めていた</li> <li>・将来について何も決めていないので影響がない</li> </ul>

②【Q2】中学校生活において、日頃の学習意欲を高めることに役立った。

1：そう思う	848	28.2%
2：どちらかといえばそう思う	1288	42.8%
3：どちらかといえばそう思わない	644	21.4%
4：そう思わない	231	7.7%
回答数合計	3011	

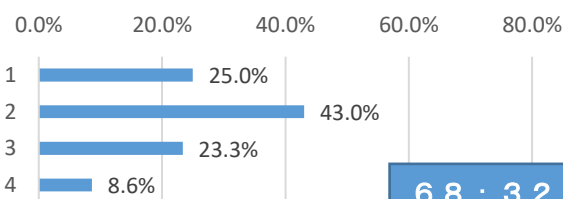


【比較】中学校Q1，保護者Q2

区分	主な自由記述内容【記述数423（14.0%） 1or2の記述308, 3or4の記述115】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日勉強するようになった（多数）</li> <li>・希望する高校に入るためのモチベーションになった（多数）</li> <li>・調査書の重要度を理解し学校の定期考査への姿勢がより真剣なものとなった</li> <li>・受験回数が1回に減少したことにより意欲が湧いた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾に行くようになった（多数）</li> <li>・入れる高校を選択した（多数）</li> <li>・勉強は高校入試のための訳ではないから別に変わらない</li> <li>・3年生になるまで入試制度がよくわからない</li> <li>・危機感があまりなく勉強する機会にならなかった</li> <li>・受験機会が1回に減少したことにより焦りが出た</li> </ul>

③【Q3】中学校生活において、学習習慣を身に付けることに役立った。

1：そう思う	752	25.0%
2：どちらかといえばそう思う	1296	43.0%
3：どちらかといえばそう思わない	703	23.3%
4：そう思わない	260	8.6%
回答数合計	3011	



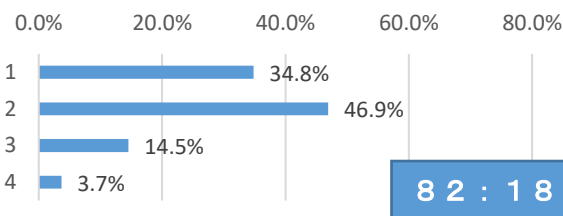
【比較】保護者Q3

区分	主な自由記述内容【記述数328（10.8%） 1or2の記述200, 3or4の記述128】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家に帰ってから勉強する習慣が身についた（多数）</li> <li>・計画的に勉強するようになった（多数）</li> <li>・自分の苦手なところを理解することができた（多数）</li> <li>・勉強する時間が増加した（多数）</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾に通い始めたことで学習習慣が身についた（多数）</li> <li>・焦りや危機感から勉強するようになった（多数） → しかし、高校に入ったらやらなくなった</li> <li>・勉強しなかった（多数）</li> <li>・やる気力がなかった（多数）</li> <li>・学習習慣と入試制度は関係ない</li> </ul>

(2) 生 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑤の質問にお答えください。

①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。

1：そう思う	1049	34.8%
2：どちらかといえばそう思う	1413	46.9%
3：どちらかといえばそう思わない	438	14.5%
4：そう思わない	111	3.7%
回答数合計	3011	

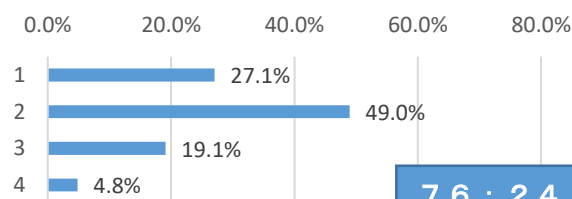


【比較】中学校Q2，高等学校Q1，保護者Q4

区分	主な自由記述内容【記述数194（6.5%） 1or2の記述148, 3or4の記述46】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められる人材がわかった（多数）</li> <li>・知りたい内容が記載されている（多数）</li> <li>・わかりやすく書いてあった</li> <li>・書いてある内容をイメージできた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットやホームページの方を活用した（多数）</li> <li>・あまり見ていない（多数）</li> <li>・もう少し中学生にもわかりやすい表現にして欲しい</li> <li>・もっと具体的なところまで掲載するべき</li> <li>・どこが重要なかわからない</li> </ul>

②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

1：そう思う	815	27.1%
2：どちらかといえばそう思う	1474	49.0%
3：どちらかといえばそう思わない	576	19.1%
4：そう思わない	146	4.8%
回答数合計	3011	

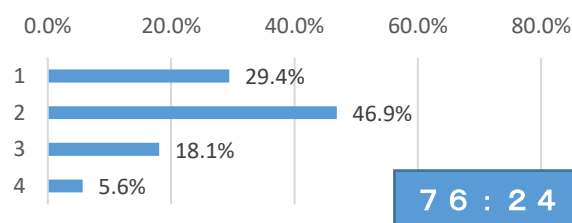


【比較】保護者Q5

区分	主な自由記述内容【記述数189（6.3%） 1or2の記述113, 3or4の記述76】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく掲載されている（多数）</li> <li>・具体的な内容が記載されていた（多数）</li> <li>・困ることは少なかった</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく見ていない（多数）</li> <li>・堅苦しい言葉（抽象的な言葉，難しい言葉）が多かった（多数）</li> <li>・受験生目線で記載されていなかった</li> <li>・特色選抜がわかりにくかった</li> </ul>

③【Q6】受験生が各高校の特色の理解することに役立った。

1：そう思う	886	29.4%
2：どちらかといえばそう思う	1411	46.9%
3：どちらかといえばそう思わない	544	18.1%
4：そう思わない	170	5.6%
回答数合計	3011	

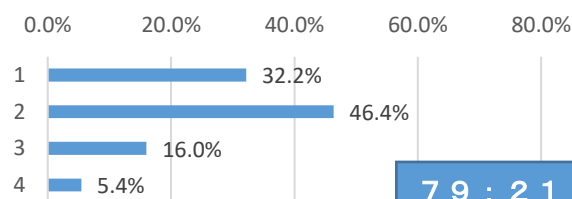


【比較】中学校Q8，高等学校Q6，保護者Q6

区分	主な自由記述内容【記述数167（5.5%） 1or2の記述103, 3or4の記述64】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の特色を深く理解できた（多数）</li> <li>・しっかりと書かれていたので他の学校と比較することができた（多数）</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しいことはパンフレットやオープンスクールで確認した（多数）</li> <li>・他の高校との違いをあまり感じなかった</li> <li>・実際に学校を見ないと良さが伝わらない</li> <li>・「求める生徒像」だけでは学校を理解することは難しい</li> </ul>

④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

1：そう思う	969	32.2%
2：どちらかといえばそう思う	1396	46.4%
3：どちらかといえばそう思わない	482	16.0%
4：そう思わない	164	5.4%
回答数合計	3011	

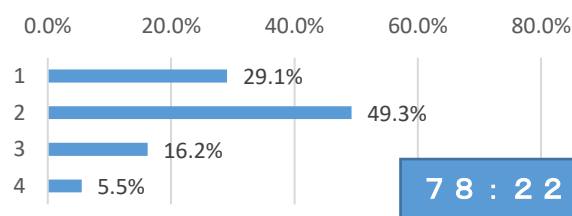


【比較】中学校Q3，高等学校Q2，保護者Q7

区分	主な自由記述内容【記述数138（4.6%） 1or2の記述99, 3or4の記述39】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考える機会になった（多数）</li> <li>・志望する学校がどんな感じなのか把握するために役立った</li> <li>・「求める生徒像」をイメージしやすかった</li> <li>・真剣に考えることができた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり意識して見ていない（多数）</li> <li>・意欲に変化がなかった</li> </ul>

⑤【Q8】自分の意思や判断に基づいた主体的な進路選択に役立った。

1：そう思う	876	29.1%
2：どちらかといえばそう思う	1483	49.3%
3：どちらかといえばそう思わない	487	16.2%
4：そう思わない	165	5.5%
回答数合計	3011	

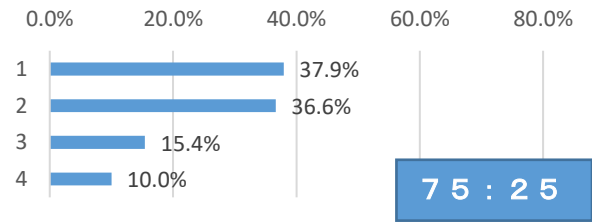


【比較】中学校Q4，高等学校Q3，保護者Q8

区分	主な自由記述内容【記述数95（3.2%） 1or2の記述59, 3or4の記述36】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から入りたいと思った（多数）</li> <li>・自分の意思や意見を尊重して決めることができた（多数）</li> <li>・進路に関する目標を立てることができた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見ていない（多数）</li> <li>・学力だけで選んでいるのであまり関係ない</li> </ul>

(3) 生 (3) 【Q9】 第一次募集に追試験を導入したことは、受験に臨む上での安心感につながった。

1 : そう思う	1142	37.9%
2 : どちらかといえばそう思う	1103	36.6%
3 : どちらかといえばそう思わない	465	15.4%
4 : そう思わない	301	10.0%
回答数合計	3011	

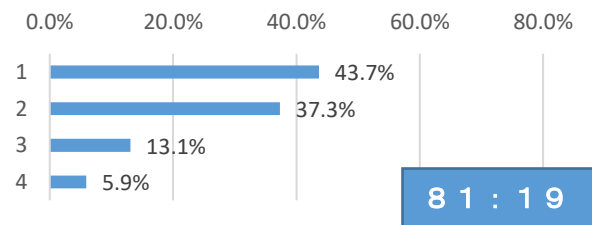


【比較】 中学校 Q11, 保護者 Q9

区分	主な自由記述内容【記述数204 (6.8%) 1or2の記述123, 3or4の記述81】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験を受けることができなかった時に追試験があると安心できる (多数)</li> <li>・平等な受験機会が与えられてよい</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追試験を受験していないからあまりよくわからなかった (多数)</li> <li>・安心感はあるが、本試験と異なる試験を解くことに少し不安があった</li> </ul>

(4) 生 (4) 【Q10】 1月中旬に公表している出願希望調査は進路選択に役立った。

1 : そう思う	1315	43.7%
2 : どちらかといえばそう思う	1124	37.3%
3 : どちらかといえばそう思わない	394	13.1%
4 : そう思わない	178	5.9%
回答数合計	3011	

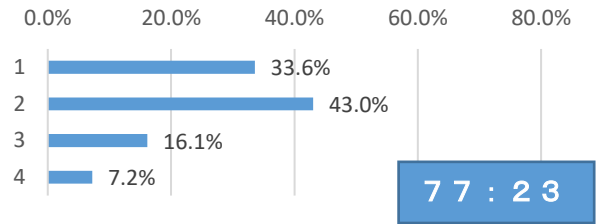


【比較】 中学校 Q17, 高等学校 Q13, 保護者 Q10

区分	主な自由記述内容【記述数182 (6.0%) 1or2の記述126, 3or4の記述56】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度学校の倍率を知ることができてよかった (多数)</li> <li>・ライバルの状況を知ることができた (多数)</li> <li>・学習への意欲が湧いた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり考慮しなかった (多数)</li> <li>・不安が募った</li> <li>・倍率の低いところを選んだ</li> </ul>

(5) 生 (5) 【Q11】 第一次募集の願から本試験を経て合格発表までの入試に係る日数は、受験生にとって適切であった。

1 : そう思う	1012	33.6%
2 : どちらかといえばそう思う	1296	43.0%
3 : どちらかといえばそう思わない	486	16.1%
4 : そう思わない	217	7.2%
回答数合計	3011	

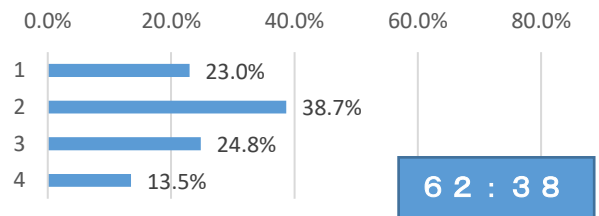


【比較】 中学校 Q18, 高等学校 Q14, 保護者 Q11

区分	主な自由記述内容【記述数215 (7.1%) 1or2の記述93, 3or4の記述122】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長くも短くもなくちょうど良かった</li> <li>・卒業式を終えてからの合格発表なのでよかった</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し短くてもよかった (多数)</li> <li>・不安な時期が続くので合格発表をもう少し早くして欲しい (多数)</li> </ul>

(6) 生 (6) 【Q12】 進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。

1 : そう思う	692	23.0%
2 : どちらかといえばそう思う	1165	38.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	747	24.8%
4 : そう思わない	407	13.5%
回答数合計	3011	



【比較】 中学校 Q16, 保護者 Q12

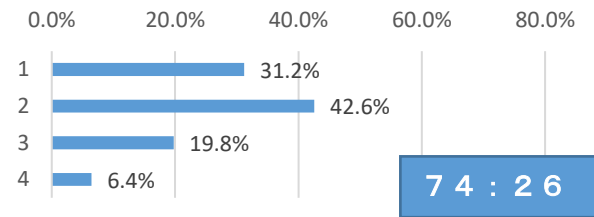
区分	主な自由記述内容【記述数125 (4.2%) 1or2の記述47, 3or4の記述78】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両方の選抜を意識しながら受験することができた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり気にしていなかった (多数)</li> <li>・どのように選抜しているかわからない</li> <li>・点数を取るだけ考えていた</li> <li>・選抜人数の多い共通選抜のみで考えていた</li> </ul>

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査詳細分析資料 【質問対象：保護者】

(1) 保 (1) 高校入試 (学力検査) について、次の①～③の質問にお答えください。

①【Q1】受験生が将来について考える機会になった。

1：そう思う	654	31.2%
2：どちらかといえばそう思う	892	42.6%
3：どちらかといえばそう思わない	414	19.8%
4：そう思わない	135	6.4%
回答数合計	2095	

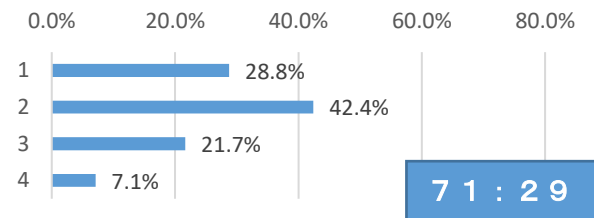


【比較】生徒Q1

区分	主な自由記述内容【記述数565 (27.0%) 1or2の記述381, 3or4の記述184】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来 (高校, 大学, 就職, 専門学校, 職業等) を見据えて学校選びをしていた (多数)</li> <li>・将来について家族内で話す機会が増えた (多数)</li> <li>・将来に向き合うきっかけとなった</li> <li>・自分の得意, 不得意なことを理解することができた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が決まっていない (多数)</li> <li>・なんとなくかなると思っているまたはなんとなく選んだ (多数)</li> <li>・将来を考えるにあたり受験方法はあまり関係ない</li> <li>・将来を見据えているのではなく, 家が近いや友人がいるなどの要素で選択している</li> <li>・学力に見合った学校を選んだだけである</li> </ul>

②【Q2】中学校生活において、受験生が日頃の学習意欲を高めることに役立った。

1：そう思う	603	28.8%
2：どちらかといえばそう思う	889	42.4%
3：どちらかといえばそう思わない	454	21.7%
4：そう思わない	149	7.1%
回答数合計	2095	



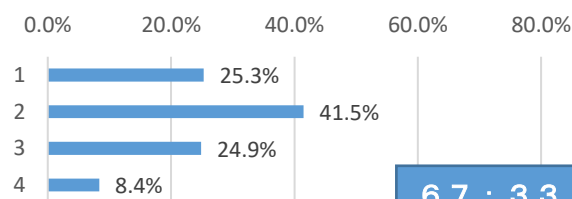
【比較】中学校Q1, 生徒Q2

区分	主な自由記述内容【記述数391 (18.7%) 1or2の記述227, 3or4の記述164】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日コツコツ勉強するようになった (多数)</li> <li>・やらなければならないという気持ちになった (多数)</li> <li>・目標に向けて自主的に学習するようになった</li> <li>・1年生の頃から意識して積極的に活動していた</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくわからない (多数)</li> <li>・あまり変わらなかった (多数)</li> <li>・入試制度変更による影響は特にない</li> <li>・受験のための勉強なのであまり意味がない</li> <li>・3年生になって焦っていた</li> <li>・本人の受験に対する意欲が低かった</li> </ul>



③【Q3】中学校生活において、受験生が学習習慣を身に付けることに役立った。

1：そう思う	530	25.3%
2：どちらかといえばそう思う	869	41.5%
3：どちらかといえばそう思わない	521	24.9%
4：そう思わない	175	8.4%
回答数合計	2095	



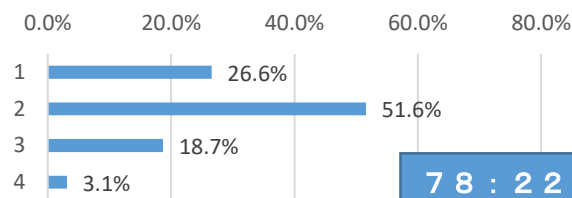
【比較】生徒Q3

区分	主な自由記述内容【記述数314（15.0%） 1or2の記述156, 3or4の記述158】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習が習慣化した（多数）</li> <li>・計画的に学習するようになった（多数）</li> <li>・目標が定まり、努力するようになった</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾に通い頑張っていた（多数）</li> <li>・よくわからない（多数）</li> <li>・変化がなかった（多数）</li> <li>・学習習慣が身につかなかった（多数）</li> <li>・学習習慣と入試制度の変更に関係はない</li> </ul>

(2) 保 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑤の質問にお答えください。

①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。

1：そう思う	557	26.6%
2：どちらかといえばそう思う	1081	51.6%
3：どちらかといえばそう思わない	392	18.7%
4：そう思わない	65	3.1%
回答数合計	2095	

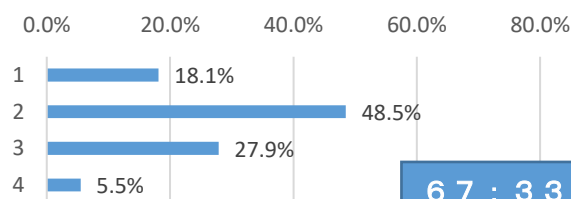


【比較】中学校Q2，高等学校Q1，生徒Q4

区分	主な自由記述内容【記述数223（10.6%） 1or2の記述125, 3or4の記述98】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく書いてあるのでイメージが付きやすかった（多数）</li> <li>・見てわかるようになっている（多数）</li> <li>・求める生徒像を意識して中学生生活を充実させるように取り組んだ</li> <li>・自分にあった学校が選択できる</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくわからなかった（多数）</li> <li>・もう少し幅広く書いてあるとより良い（多数）</li> <li>・各校さほど違いがなく一般的に思われ選択の材料にならなかった</li> <li>・理念が崇高すぎて今の子どもには萎縮してしまうところがある</li> <li>・アナウンスが今ひとつであった</li> </ul>

②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

1：そう思う	380	18.1%
2：どちらかといえばそう思う	1016	48.5%
3：どちらかといえばそう思わない	584	27.9%
4：そう思わない	115	5.5%
回答数合計	2095	

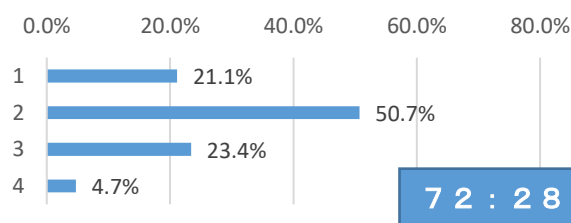


【比較】生徒Q5

区分	主な自由記述内容【記述数183 (8.7%) 1or2の記述67, 3or4の記述116】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすかった (多数)</li> <li>・目標が設定しやすい</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し噛み砕いた内容にして欲しいと感じた (多数)</li> <li>・普通科は各学校で違いがあまりないように思う (多数)</li> <li>・あまり見ていない</li> <li>・求める生徒像をあまり気にしていない</li> <li>・説明されないと理解できていないところがあった</li> </ul>

③【Q6】受験生が各高校の特色を理解することに役立った。

1：そう思う	443	21.1%
2：どちらかといえばそう思う	1063	50.7%
3：どちらかといえばそう思わない	490	23.4%
4：そう思わない	99	4.7%
回答数合計	2095	

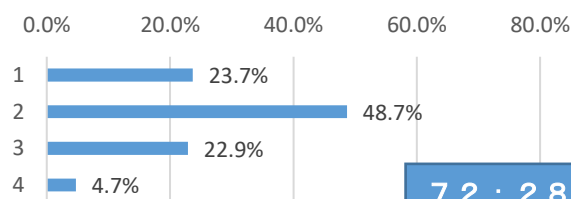


【比較】中学校Q8, 高等学校Q6, 生徒Q6

区分	主な自由記述内容【記述数137 (6,5%) 1or2の記述61, 3or4の記述76】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役に立った (多数)</li> <li>・比べられる資料があるのはありがたい</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり見ていなかった (多数)</li> <li>・学校のホームページやオープンキャンパスに参加する方がわかりやすかった</li> <li>・もう少しわかりやすく記載されたほうがよい</li> <li>・どの高校も同じような内容に感じあまり各高校の特色がわからなかった</li> <li>・具体的な特色内容が記載されてなく曖昧な気がした</li> </ul>

④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

1：そう思う	496	23.7%
2：どちらかといえばそう思う	1020	48.7%
3：どちらかといえばそう思わない	480	22.9%
4：そう思わない	99	4.7%
回答数合計	2095	

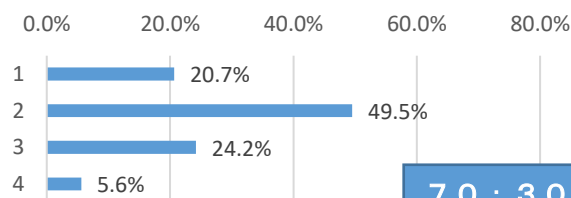


【比較】中学校Q3，高等学校Q2，生徒Q7

区分	主な自由記述内容【記述数122（5.8%） 1or2の記述67, 3or4の記述55】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な進路情報を知ること意識が高まった</li> <li>・努力目標が明確になった</li> <li>・将来について考える機会になった</li> <li>・役立った受験生が多かったと思う</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に役に立った訳ではない</li> <li>・そこまでの情報はなかったと思う</li> <li>・求める生徒像に自分が合っているかではなく入りたい学校を選択していた</li> <li>・子どもがあまり深く考えていない又はあまり関係していない</li> </ul>

⑤【Q8】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択に役立った。

1：そう思う	433	20.7%
2：どちらかといえばそう思う	1038	49.5%
3：どちらかといえばそう思わない	507	24.2%
4：そう思わない	117	5.6%
回答数合計	2095	

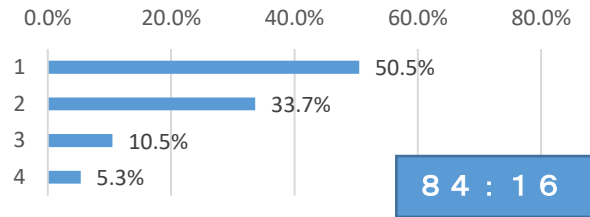


【比較】中学校Q4，高等学校Q3，生徒Q8

区分	主な自由記述内容【記述数116（5.5%） 1or2の記述57, 3or4の記述59】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意な分野を自分で理解して選択することができた（多数）</li> <li>・高校の特色を感じ取り本人の受験したい気持ちが高まっていた</li> <li>・自分で考える材料尾はなっている</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に役に立った訳ではない</li> <li>・実際に役立ったのはオープンスクールであった</li> <li>・そもそも選択肢が少ないので主体的な進路選択とは言えない</li> <li>・大人達の意見が尊重された</li> <li>・結局判断は、模試等の結果と通学可能範囲で決めた</li> </ul>

(3) 保 (3) 【Q9】 第一次募集に追試験を導入したことは、受験生や保護者に対して、受験に臨む上での安心感につながった。

1 : そう思う	1058	50.5%
2 : どちらかといえばそう思う	705	33.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	220	10.5%
4 : そう思わない	112	5.3%
回答数合計	2095	

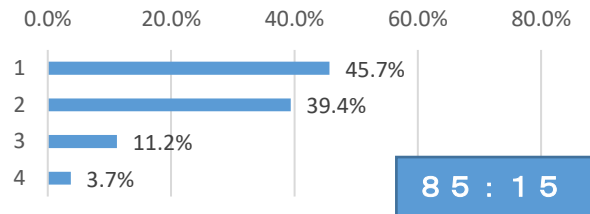


【比較】 中学校 Q11, 生徒 Q9

区分	主な自由記述内容【記述数258 (12.3%) 1or2の記述211, 3or4の記述47】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でもあり安心できた (多数)</li> <li>・万が一の事態に対応できるから</li> <li>・このシステムには本当に安心した</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追試験があることがわからなかった</li> <li>・追試験になった場合にテストの難易度が上がることも考えられた</li> <li>・公立高校が不合格だった場合は私立高校に進学するつもりだった</li> </ul>

(4) 保 (4) 【Q10】 1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役立った。

1 : そう思う	957	45.7%
2 : どちらかといえばそう思う	825	39.4%
3 : どちらかといえばそう思わない	235	11.2%
4 : そう思わない	78	3.7%
回答数合計	2095	

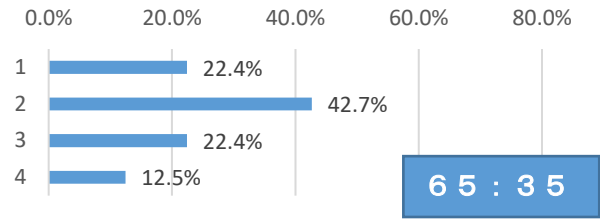


【比較】 中学校 Q17, 高等学校 Q13, 生徒 Q10

区分	主な自由記述内容【記述数233 (11.1%) 1or2の記述168, 3or4の記述65】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時点で倍率がわかるのはいいことである (多数)</li> <li>・出願の最終的な判断は出願希望調査の結果で判断した (多数)</li> <li>・出願希望調査を見ることにより受験に向けてのモチベーションを上げるきっかけになった</li> <li>・自分の意思を再確認する機会になった</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し時期が早くてもよい</li> <li>・公表が中学校での出願締切日が近いために役に立たなかった</li> <li>・まだ将来への迷いがある学生が多い中で焦りで判断する受験生もいた</li> <li>・これが無くなると不合格者が多くなりそう</li> <li>・実際の受験への迷いは増えた</li> <li>・私立高校に変更する受験生も増えた</li> </ul>

(5) 保 (5) 【Q11】 第一次募集の願から本試験を経て合格発表までの入試に係る日数は、受験生にとって適切であった。

1 : そう思う	470	22.4%
2 : どちらかといえばそう思う	894	42.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	470	22.4%
4 : そう思わない	261	12.5%
回答数合計	2095	

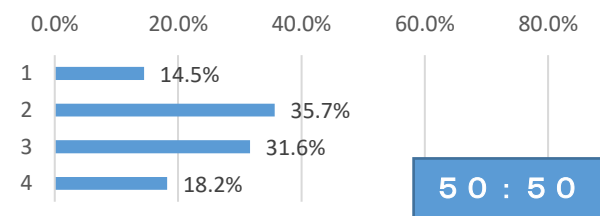


【比較】 中学校 Q18, 高等学校 Q14, 生徒 Q11

区分	主な自由記述内容【記述数354 (16.7%) 1or2の記述81, 3or4の記述273】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題ない又は妥当な期間である (多数)</li> <li>・本試験と合格発表の間に余裕がありその間に卒業式ができるのは精神的にありがたい</li> <li>・同じ条件であれば期間の長い短いはそれほど関係ない</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験日から合格発表までの期間が少し長いと感じた (多数)</li> <li>・卒業式までに進路が決まっているべきだと思う</li> <li>・第二次募集までの期間に余裕が欲しい</li> </ul>

(6) 保 (6) 【Q12】 受験生が進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。

1 : そう思う	303	14.5%
2 : どちらかといえばそう思う	747	35.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	663	31.6%
4 : そう思わない	382	18.2%
回答数合計	2095	



【比較】 中学校 Q16, 生徒 Q12

区分	主な自由記述内容【記述数223 (10.6%) 1or2の記述57, 3or4の記述166】
評価事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の尺度で評価してもらえることはよい</li> <li>・特色選抜でこれまで頑張ってきたことを認めてもらえることはよい</li> <li>・勉強が苦手な受験生にはチャンスが与えられている</li> <li>・何か特色を持っていれば可能性が広がる</li> </ul>
課題事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色選抜についてはよくわからなかった (多数)</li> <li>・特色選抜をあまり考慮しなかった</li> <li>・特色選抜に関わる事柄が特になかった</li> <li>・特色選抜での選抜人数が少ないので共通選抜で考えていた</li> <li>・共通選抜と特色選抜があることを理解していなかった</li> </ul>

## 自由記述（生徒）

総回答数3,011件のうち、自由記述103件（3.4%）

※共通選抜と特色選抜について		
1	特色選抜を廃止して欲しい	2
2	特色選抜をもう少しわかりやすくして欲しい	2
※入試日程の一本化		
1	前期選抜と後期選抜に戻して欲しい	8
※入試制度について		
1	推薦入試が無くなったのが残念	4
2	・評定を入試に取り入れることに疑問を感じる ・評定の学校間の格差をなくして欲しい	4
3	合格発表をもう少し早くして欲しい	3
4	入試制度を廃止した法がよい	3
5	評定の割合をもっと小さくして欲しい	2
6	調査書の5教科以外の評定を2倍にするのをやめて欲しい	2
7	希望調査をもう少し早く発表して欲しい	2
8	学力以外に評価する指標を導入して欲しい	2
9	公立高校を2回受験できるようにして欲しい	2
※入試問題について		
1	問題が易しすぎる	9
2	差がつくようにもっと数学の問題を難しくすべき	3
3	難関校で自校作成問題の導入を望む	3
4	数学の最終問題は正答率が極端に低く無駄である	2

## 自由記述（保護者）

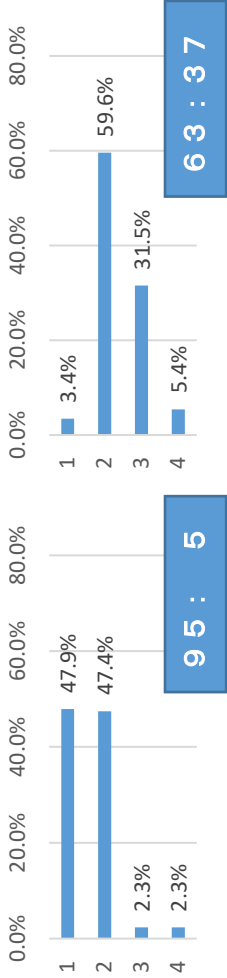
総回答数2,095件のうち、自由記述261件（12.5%）

※共通選抜と特色選抜について		
1	共通選抜か特色選抜のどちらで合格したか開示して欲しい	11
2	共通選抜と特色選抜の違いがわかりづらい	4
3	特色選抜について学校ごとに異なるのでわかりづらい	2
4	普通科での特色選抜にあまり必要がない	2
※入試日程の一本化		
1	受験日程を前倒しした方がよい、卒業式より前に合格発表をして欲しい	15
2	前期選抜と後期選抜に戻して欲しい	6
3	公立高校を2回受験できるようにして欲しい	4
4	入試制度を変更するなら中学入学前に確定したものを行うべき	3
※入試制度について		
1	・評定を入試に取り入れることに疑問を感じる ・評定の学校間の格差をなくして欲しい	17
2	試験から合格発表までの期間があまり長いのはどうかと感じる	11
3	調査書の5教科以外の評定を2倍にするのをやめて欲しい	9
4	・評定の比率が高いために、3年生から成績が向上しても挽回できない ・3年生で頑張ったり転校した生徒を考慮して3年生の評定で評価して欲しい	8
5	公立高校に推薦枠がないことは厳しい	8
6	合格発表から入学式までの準備期間が短すぎる（準備が大変である）	5
7	入試制度をコロコロ変更することはやめて欲しい	4
8	子どもの数が減少しているので学区制に戻して各地域バランスよくして欲しい	4
9	中学校での受験に対する情報提供や学習指導が不足している	3
10	合格発表をWEBも同時刻にして欲しい	2
11	入試制度が複雑すぎて難しい	2
※入試問題について		
1	入試問題が易しすぎる	6
2	数学の最終問題を時間内に解けるレベルにすべき	2

# 平成28年度実施の質問紙調査との比較による入試制度検証

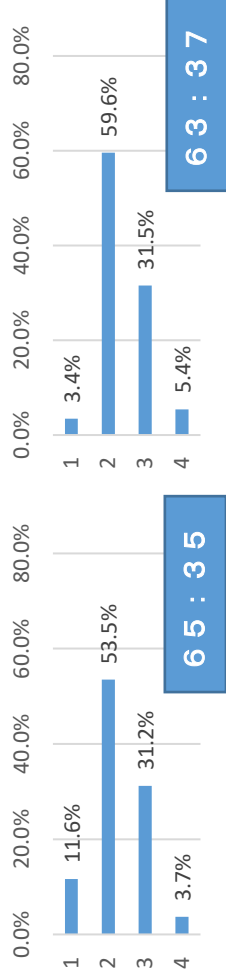
## 【比較1】入試制度による学習意欲への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
<p>中(1) 【Q1】 高校入試という目標が、生徒が日頃の学習意欲を高めることに役立っている。</p>	<p>中【Q3】 新しい入試制度は、「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている。</p>		



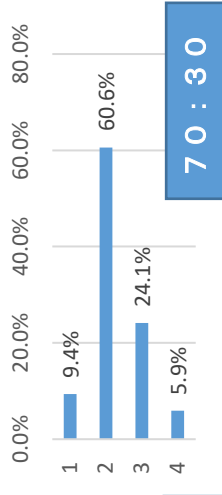
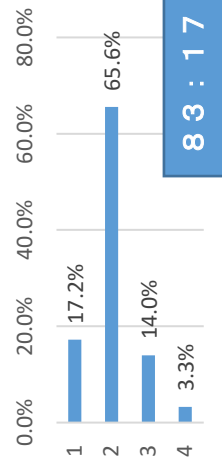
## 【比較2】入試制度による学習習慣の形成への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
<p>中(2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、</p> <p>④【Q5】 日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている。</p>	<p>中【Q3】 新しい入試制度は、「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている。</p>		



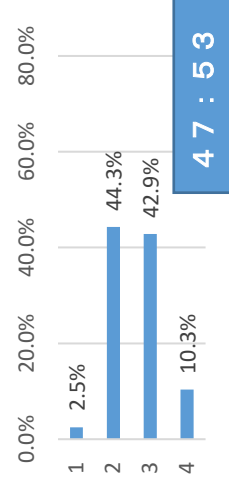
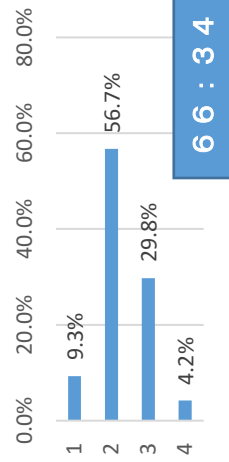
【比較3】入試制度による主体的な進路選択への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
<p>中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、</p> <p>③【Q4】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。</p>	<p>中【Q2】新しい入試制度は、「目的意識の明確化・主体的な進路選択」に役立っている。</p>		



【比較4】入試制度による学校生活の充実への影響

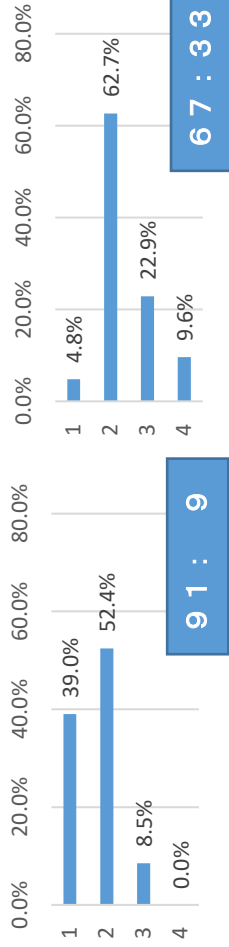
中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
<p>中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、</p> <p>⑧【Q9】生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている。</p>	<p>共【Q7】新しい入試制度は、「生徒にとって、学校生活の充実」に役立っている。</p>		





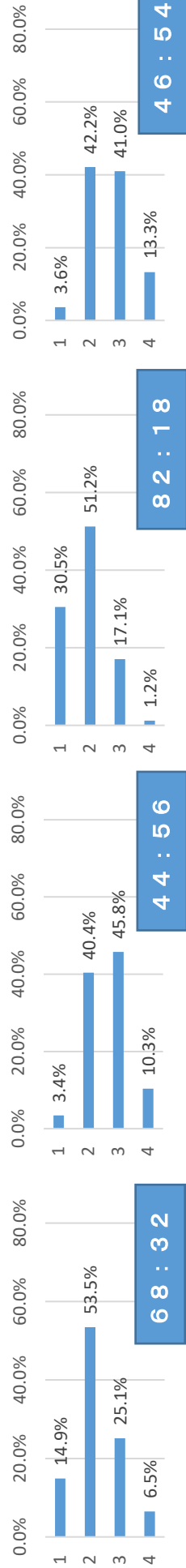
【比較5】入試制度による特色ある学校づくりへの影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
		高(1) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ④【Q4】各高校が進める特色ある学校づくりに役立っている。	高【Q4】新しい入試制度は、各高校が進める「特色ある学校づくり」に役立っている。



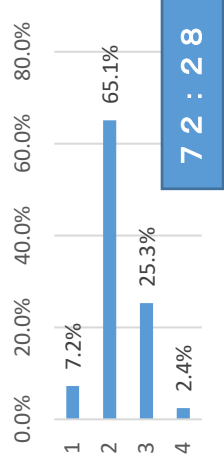
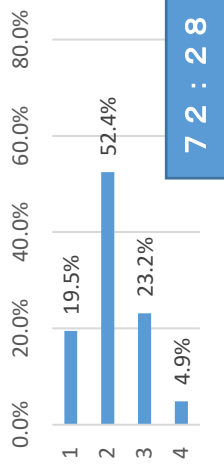
【比較6】入試期間と教育活動の充実との関係

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中(3) 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて、 ⑥【Q15】入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている。	共【Q8】新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている。	高(2) 現行入試制度において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定したことについて、 ②【Q8】入試期間が短くなり、高校の教育活動を充実させることに役立っている。	共【Q8】新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている。



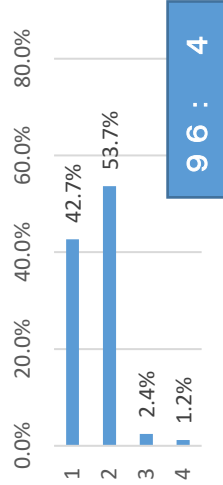
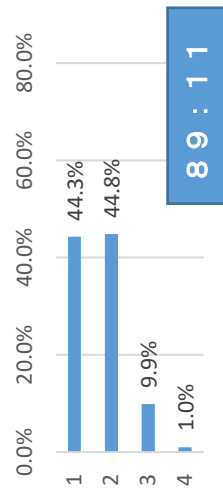
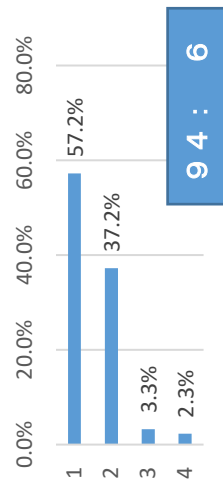
【比較7】入試制度における選抜方法への影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
		高(2) 現行入試制度において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定した点について、	高【Q5】新しい入試制度は、「期待する生徒像に沿った資質・能力の評価」に役立っている。
		⑥【Q12】求める生徒像に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている。	



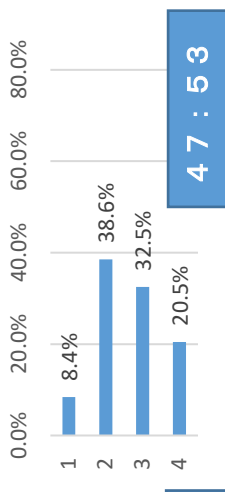
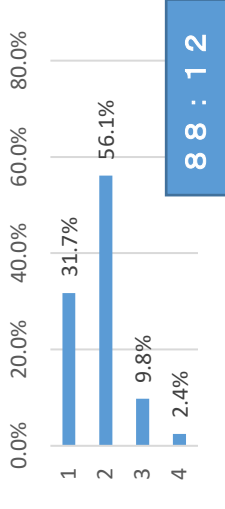
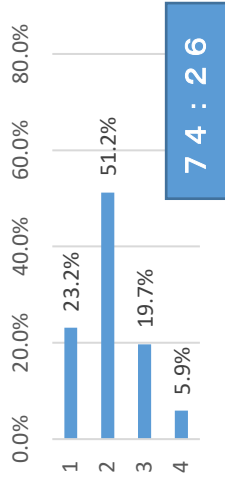
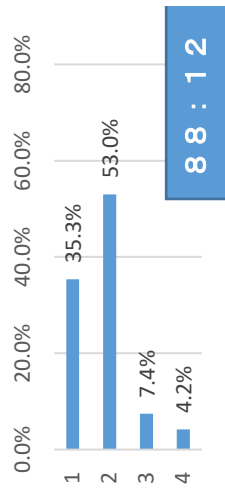
【比較8】受験生の進路選択に関する出願希望調査 (H28志願者予備調査) の影響

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中(4) 【Q17】1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役に立っている。	共【Q13】志願者予備調査について ※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある	高(3) 【Q13】1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役立っている。	共【Q13】志願者予備調査について ※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある



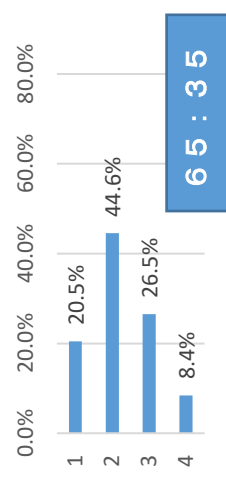
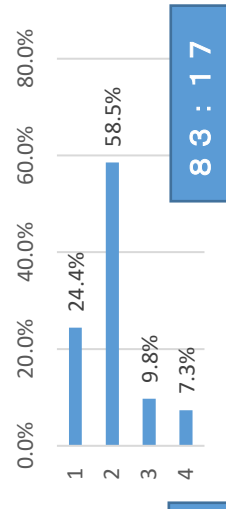
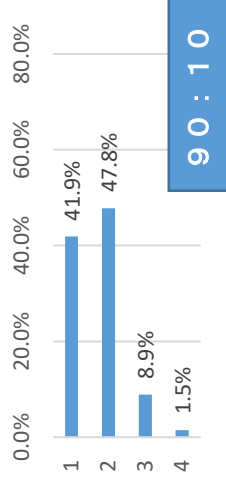
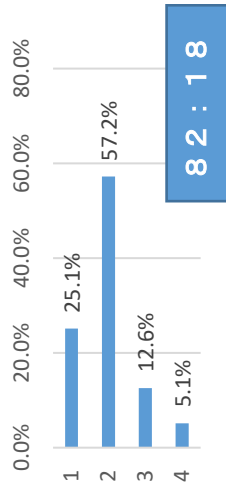
【比較9】入試全体の期間・時期に関する評価

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中 (5) 現行入試制度の日程について,	共【Q12】日程(入試全体の期間・時期)について	中 (5) 現行入試制度の日程について,	共【Q12】日程(入試全体の期間・時期)について
①【Q18】第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、中学校が受験生に対応する上で適切である。	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある	①【Q14】第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、高校が入試を実施する上で適切である。	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある



【比較10】入試全体の期間・時期に関する評価

中学校	H28実施 中学校	高等学校	H28実施 高等学校
中 (5) 現行入試制度の日程について,	共【Q11】日程(第二次募集)について	中 (5) 現行入試制度の日程について,	共【Q11】日程(第二次募集)について
③【Q20】第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある	③【Q16】第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。	※1 課題がない 2 どちらかといえば課題がない 3 どちらかといえば課題がある 4 課題がある



中部地区と中部以外の地区の回答割合の差（中学校・高等学校）

補助資料 3

※表示している比は、（1または2を選択した割合）：（3または4を選択した割合）

	項目	中学校 (回答数215)		高等学校 (回答数82)	
		中部地区	中部以外の地区	中部地区	中部以外の地区
I 高校入試（学力検査）について					
1	自分の将来を考える機会となった				
2	日頃の学習意欲を高めることに役立った	中 (1) 【Q1】			
		96 : 4	95 : 5		
3	学習習慣を身に付けることに役立った				
II 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について					
1	志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されている	中 (2) ① 【Q2】		高 (1) ① 【Q1】	
		90 : 10	96 : 4	94 : 6	100 : 0
2	受験生にとって、わかりやすく記載されている				
3	受験生の進路に対する意識を高めることにつながっている	中 (2) ② 【Q3】		高 (1) ② 【Q2】	
		85 : 15	93 : 7	88 : 12	92 : 8
4	受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている	中 (2) ③ 【Q4】		高 (1) ③ 【Q3】	
		76 : 24	91 : 9	94 : 6	88 : 12
5	日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている	中 (2) ④ 【Q5】			
		56 : 44	76 : 24		
6	教員が各高校の特色を理解することに役立っている	中 (2) ⑤ 【Q6】			
		92 : 8	95 : 5		
7	教員が受験生に対して進路指導を行うことに役立っている	中 (2) ⑥ 【Q7】			
		91 : 9	98 : 2		
8	各高校が進める特色ある学校づくりに役立っている			高 (1) ④ 【Q4】	
				91 : 9	92 : 8
9	中学校の教員が、各高校の特色を理解することに役立っている			高 (1) ⑤ 【Q5】	
				84 : 16	90 : 10
10	受験生が各高校の特色を理解することに役立っている	中 (2) ⑦ 【Q8】		高 (1) ⑥ 【Q6】	
		84 : 16	91 : 9	81 : 19	88 : 12
11	生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている	中 (2) ⑧ 【Q9】			
		56 : 44	78 : 22		

※表示している比は、（1または2を選択した割合）：（3または4を選択した割合）

項目	中学校 (回答数215)		高等学校 (回答数82)	
	中部地区	中部以外の地区	中部地区	中部以外の地区
Ⅲ 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて				
1 在校生徒に対応する時間の確保につながっている	中 (3) ④ 【Q13】		高 (2) ① 【Q7】	
	70 : 30	83 : 17	84 : 16	86 : 14
2 入試期間が短くなり、高校の教育活動を充実させることに役立っている			高 (2) ② 【Q8】	
			81 : 19	82 : 18
3 入試期間が短くなり、受験生として緊張が継続する負担が軽減している	中 (3) ① 【Q10】			
	67 : 33	77 : 23		
4 第一次募集に追試験が導入され、受験に臨む上で、受験生や保護者の安心感につながっている	中 (3) ② 【Q11】			
	90 : 10	97 : 3		
5 合格した生徒と受験を控えた生徒が混在することによるクラス運営上の負担が軽減している	中 (3) ③ 【Q12】			
	55 : 45	86 : 14		
6 入試業務の負担軽減につながっている	中 (3) ⑤ 【Q14】		高 (2) ③ 【Q9】	
	82 : 18	93 : 7	75 : 25	62 : 38
7 入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている	中 (3) ⑥ 【Q15】			
	59 : 41	79 : 21		
8 進路を決定する際に、共通選抜だけでなく、特色選抜の選抜方法も十分に考慮して進路選択している	中 (3) ⑦ 【Q16】			
	59 : 41	67 : 33		
9 入試日程を一本化しても、複数の選抜機会が維持されている			高 (2) ④ 【Q10】	
			66 : 34	74 : 26
10 学校の特色に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている			高 (2) ⑤ 【Q11】	
			72 : 28	72 : 28
11 求める生徒像に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている			高 (2) ⑥ 【Q12】	
			75 : 25	70 : 30
Ⅳ 1月中旬に公表している出願希望調査について				
1 受験生の進路選択に役立っている	中 (4) 【Q17】		高 (3) 【Q13】	
	92 : 8	97 : 3	94 : 6	98 : 2
Ⅴ 現行の入試制度の日程について				
1 第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は適切である	中 (5) ① 【Q18】		高 (4) ① 【Q14】	
	83 : 17	95 : 5	88 : 12	88 : 12
2 第一次募集の本試験から追試験までの日数は適切な期間を保證している	中 (5) ② 【Q19】		高 (4) ② 【Q15】	
	88 : 12	97 : 3	88 : 12	94 : 6
3 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は適切な期間を保證している	中 (5) ③ 【Q20】		高 (4) ③ 【Q16】	
	78 : 22	88 : 12	91 : 9	78 : 22